

茨城県教育財団文化財調査報告第473集

銚田市

# 大谷川遺跡 天神山古墳群

主要地方道大洗友部線バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書2

令和6年3月

茨城県銚田工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



茨城県教育財団文化財調査報告第473集

銚 田 市

大 谷 川 遺 跡  
天 神 山 古 墳 群

主要地方道大洗友部線バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書2

令和6年3月

茨城県銚田工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県など各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理作業を実施する組織として、昭和52年に調査課を設置して以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県鉾田工事事務所による主要地方道大洗友部線バイパス整備事業に伴って実施した、鉾田市大谷川遺跡・天神山古墳群の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、北陸地方など他地域の特徴をもつ土器が出土した古墳時代前期の集落跡や後期の古墳などが確認でき、鉾田市箕輪地区における当該時代の様相の一端が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として、広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県鉾田工事事務所に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、鉾田市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和6年3月

公益財団法人茨城県教育財団  
理事長 川股圭之



## 例 言

- 1 本書は、茨城県鉾田工事事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が令和2年度に調査を実施した。茨城県鉾田市箕輪字大谷川1684番地2ほか（地籍上所在地）に所在する大谷川遺跡・天神山古墳群の調査報告書である。
- 2 調査期間と整理期間は以下のとおりである。  
調査 令和2年10月1日～令和3年3月31日  
整理 令和5年12月1日～令和6年3月31日
- 3 調査は、調査課長酒井雄一のもと、以下の者が担当した。  
首席調査員兼課長 櫻井完介  
調査員 天野早苗  
嘱託調査員 荒井保雄 令和2年10月1日～令和3年2月28日  
調査員 櫻村宣行 令和3年3月1日～3月31日
- 4 整理と本書の執筆・編集は、整理課長本橋弘巳のもと、嘱託調査員池田晃一が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、古墳時代前期の竪穴建物跡から出土した北陸系土器については、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの赤澤徳明氏と新潟県教育庁文化行政課の滝沢規朗氏、公益財団法人石川県埋蔵文化財センターの安中哲徳氏、第5号墳主体部から出土した石材については、東邦大学訪問研究員の矢野徳也氏に御指導いただいた。また、大谷川遺跡から出土した炭化材のAMS年代測定と樹種同定、ロームの自然科学分析については、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
- 6 当遺跡の出土遺物と実測図・写真などは、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 29,880 \text{ m}$ 、 $Y = + 61,680 \text{ m}$ の交点を基準点（A1a1）とした。なお、この原点は、世界測地系（測地成果2011）による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図、遺構・遺物一覧表などで使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SD - 溝跡 SK - 土坑 SI - 竪穴建物跡 TP - 陥し穴 TM - 古墳  
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は、原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

■ 焼土・赤彩 ■ 炉 ■ 須恵器断面・石器損傷範囲  
● 土器 ○ 土製品 □ 石器 △ 金属製品 - - - 硬化面

- 4 土層解説と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

ローム-ロームブロック 焼土-焼土ブロック 粘土-粘土ブロック

A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 ○' - 極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

粘-粘性 締-締まり

A - 強い B - 普通 C - 弱い ○' - 極めて

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は[ ]を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、挿表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号とその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向とともに、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

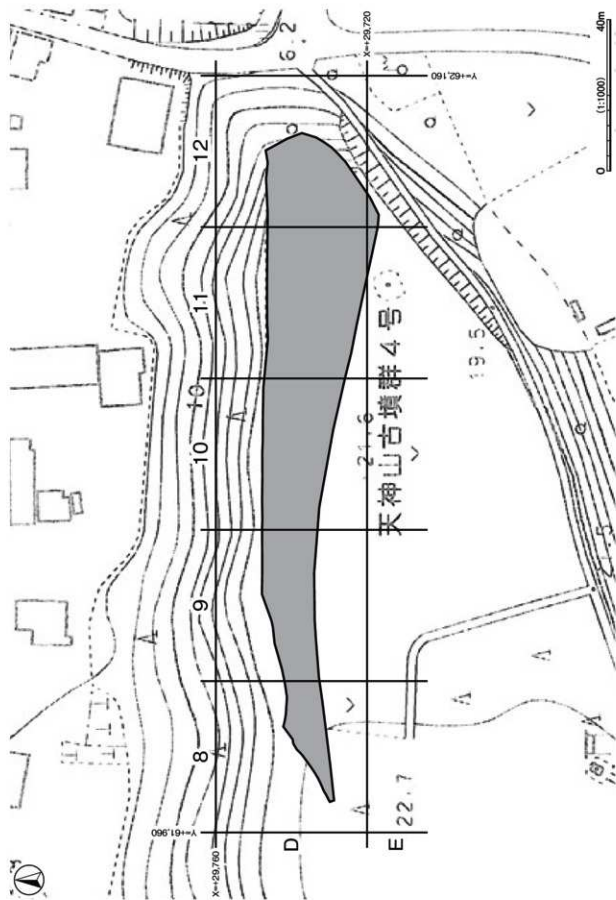
- 7 整理の段階で遺構名を変更したものは、以下のとおりである。

変更 SK21 → 第1号竪穴遺構



# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 位置と地形	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	7
第1節 調査の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 旧石器時代の遺構と遺物	8
石器集中地点	8
2 縄文時代の遺構と遺物	18
陥し穴	18
3 古墳時代の遺構と遺物	18
(1) 竪穴建物跡	18
(2) 竪穴遺構	35
(3) 土 坑	36
(4) 古 墳	42
4 時期不明の遺構と遺物	49
(1) 土 坑	49
(2) 溝 跡	53
(3) 遺構外出土遺物	54
第4節 総 括	57
付 章 自然科学分析	62
写真図版	PL 1～PL12
抄 録	



大谷川遺跡・天神山古墳群調査区設定図（銚田市都市計画図 2,500 分の 1 に加筆）

# 第1章 調 査 経 緯

## 第1節 調査に至る経緯

令和元年5月20日、茨城県鉾田工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに主要地方道大洗友部線バイパス整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は令和元年6月13日に現地踏査を、令和元年12月25日、令和2年2月10日・13日、4月8日・9日・21日・22日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。令和2年5月27日、茨城県教育委員会教育長は茨城県鉾田工事事務所長あてに、事業地内に大谷川遺跡・天神山古墳群が所在することと、その取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和2年8月11日、茨城県鉾田工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。令和2年8月13日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県鉾田工事事務所長あてに現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

令和2年8月17日、茨城県鉾田工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに主要地方道大洗友部線バイパス整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。令和2年8月18日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県鉾田工事事務所長あてに大谷川遺跡・天神山古墳群について、発掘調査の範囲と、その面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県鉾田工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、令和2年10月1日から令和3年3月31日まで調査を実施した。

## 第2節 調 査 経 過

大谷川遺跡と天神山古墳群の調査は、令和2年10月1日から令和3年3月31日までの6か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■	■			
遺構調査		■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注写 写真整理		■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収							■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

大谷川遺跡(①)と天神山古墳群(②)は、茨城県銚田市箕輪字大谷川1684番地2ほかに所在しており、大谷川遺跡の範囲内に天神山古墳群がある。

銚田市は、平成17年に鹿島郡旭村、同郡銚田町、同郡大洋村の3町村の合併により誕生した市で、茨城県南東部に位置している。市の地形は、東は鹿島灘に面し、北は潤沼、西は巴川、北浦に接しており、市域の大部分は平坦な鹿島台地である。鹿島台地は、大洗町南部から鹿嶋市に分布する台地で、東西は狭く南南東へ細長く延びている。標高は30～40mで北から南、西から東に向かってだいに高くなっている<sup>1)</sup>。東の太平洋側は急傾斜の海食崖で比較的単調であるが、北側と西側は潤沼や北浦に注ぐ河川とその支流による浸食谷が樹枝状に発達し、台地縁辺は鋸歯状の複雑な形状をしている<sup>2)</sup>。地質的には、鹿島台地は第四紀完新世に堆積し、成田層と呼ばれる砂層が基盤となり、その上部に粘土・砂・砂礫からなる見和層、火山灰質粘土層である常総粘土層、さらに関東ローム層が堆積している。ローム層は武蔵野層、立川層に相当し、ローム層中に鹿沼軽石層が堆積している<sup>3)</sup>。

当遺跡は、旧旭村の北端部に位置し、鹿島台地を北流する大谷川が潤沼に流れ込む地点の西側台地上にある。遺跡が立地する台地は大谷川と潤沼の低地部に舌状に突出しており、北に潤沼、東から南に大谷川の低地を望むことができる。舌状台地の南側は過去の土砂採取によって大きく改変を受けている。標高は約20mで、低地との比高は約16mである。遺跡の調査前の現況は、山林と畑地である。

### 第2節 歴史的環境

大谷川遺跡と天神山古墳群は、前述のとおり旧旭村の北端部に位置しており、大洗町と茨城町との境界付近にある。ここでは、大谷川の東西両岸に広がる旧旭村を中心に潤沼川東岸の大洗町、潤沼・潤沼川の南北両岸に広がる茨城町の事例を含めて各時代の様相を概観する。

旧石器時代の遺跡は、旧旭村で7か所、大洗町で4か所、茨城町で15か所が確認されている。周辺では、大谷川の東岸台地上に位置する北山遺跡(31)で後世の遺構覆土から槍先形尖頭器が出土している<sup>4)</sup>。また、前野遺跡、小和峰B遺跡、田道遺跡などでナイフ形石器や細石刃核が採集されている。茨城町では潤沼南岸に位置する向地南遺跡で槍先形尖頭器が採集されているほか、潤沼川支流の潤沼前川の河岸段丘上には、大畑遺跡、大戸富士山遺跡、羽黒山遺跡がある。大畑遺跡では、瑪瑙製ナイフ形石器などを主体とした石器集中地点1か所<sup>5)</sup>、大戸富士山遺跡でも瑪瑙製ナイフ形石器などを主体とした石器集中地点4か所、羽黒山遺跡では、細石刃とナイフ形石器などを主体とした石器集中地点3か所が確認されている<sup>6)</sup>。いずれの遺跡も潤沼川流域の河岸段丘上に立地しており、流域の台地縁辺部が活発に利用されていたことを窺わせる。

縄文時代になると、旧旭村では草創期から晩期の遺跡が329か所確認されている。草創期の遺跡数は17か所、早・前期と遺跡数は倍増し、中期には229か所とピークを迎える。後期になると遺跡数は減少し、晩期はわずか5か所と激減する。その中で八日山遺跡(44)では、前期とみられるヤマトシジミを主とする小規模な貝塚が確認されており、集落跡の存在が推定されている。茨城町の小堤貝塚や大洗町の大貫落神南貝塚、大貫落神

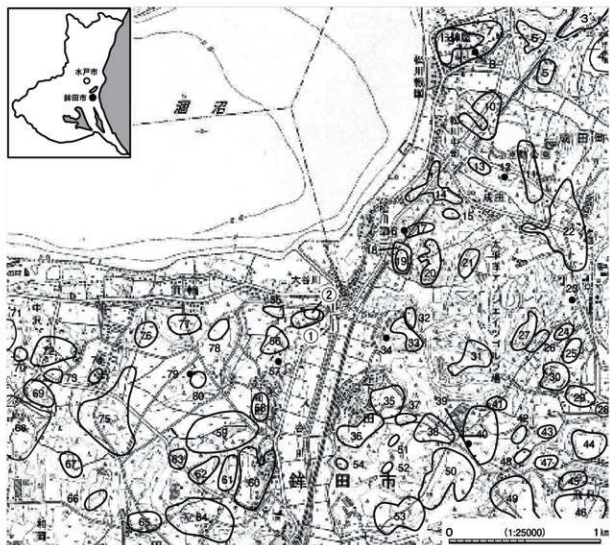
北貝塚では、貝類と共に海洋性の魚骨、漁労具などが出土しており、漁労活動が盛んに行われていたことを物語っている。

弥生時代の瀬沼川・那珂川下流域は、県内でも遺跡が多数確認されている地域である。旧旭村で28か所、大洗町で57か所、茨城町で46か所が確認されている。中期の遺跡は少なく、大谷川東岸の浜山B遺跡や瀬沼川東岸の大洗町旧陣屋遺跡(7)などである。浜山B遺跡では、中期後半の足洗式期とみられる土器棺墓や炉跡が確認されている<sup>7)</sup>。後期の遺跡は大幅に増加し、大谷川東岸の北山遺跡で集落跡が確認されている<sup>8)</sup>。また、明烏舞山遺跡(53)、日明田B遺跡、造谷遺跡、上ノ台遺跡などの遺跡も確認されている。大洗町では100棟以上の堅穴建物跡が確認された髭釜遺跡をはじめ、南藤太郎遺跡(3)、旧陣屋遺跡、ヨナ川遺跡(10)、皿沼遺跡(27)、一本松遺跡などで集落跡が確認されている。一本松遺跡の堅穴建物跡からは、十王台式土器と共に巴形銅器が出土している<sup>9)</sup>。また、茨城町の綱山遺跡とその周辺遺跡では、十王台式土器と土師器が共存した例があり、古墳文化の受容のあり方や集落の移動が考察されている<sup>10)</sup>。このように瀬沼川・那珂川下流域は、茨城県における弥生時代から古墳時代への移行期の遺跡が数多く存在する地域として注目されている。

古墳時代の遺跡は、前期では大谷川東岸で下太田遺跡(35)、日明田B遺跡、小和峰A遺跡、町田原遺跡、山ノ崎C遺跡で土器が採集されているが、大谷川西岸では、当遺跡の2.4km西に所在する大等遺跡で土器が採集されている程度である。大洗町では千天遺跡、長峰遺跡、常福寺遺跡、落神遺跡で、茨城町内では瀬沼川北岸の南小淵遺跡で集落跡が調査されている<sup>11)</sup>。中期では大谷川東岸で下太田遺跡、上太田遺跡、日明田B遺跡、小和峰A遺跡で土器が採集されている。大谷川西岸でも、当遺跡と仙神上A遺跡(59)がある。また、大洗町の落神遺跡、登城遺跡、ヨナ川遺跡で集落跡が調査されている。後期では大谷川東岸の北山遺跡、大谷川西岸の天神道B遺跡(55)、大平遺跡(75)、大洗町のおんだし遺跡(22)、常福寺遺跡、登城遺跡、ヨナ川遺跡で集落跡が調査されている。古墳は、瀬沼川東岸で全長101mの前方後円墳である日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳を含む前期から中期初頭の古墳6基からなる国史跡の磯浜古墳群がある。大谷川東岸の浜山古墳群は、中期の方墳2基であることが確認されている<sup>12)</sup>。そのほか、瀬沼東岸には旧陣屋古墳(8)、椎木古墳(12)、神ノ下古墳、宮久保古墳、下宿古墳、大谷川東岸には下太田古墳群(38)、上ノ台古墳、梶又古墳群など、大谷川西岸では、当古墳群と和田台古墳(79)、田崎古墳群などが確認されている。当古墳群は、前方後円墳1基と円墳14基からなる古墳群である。第4号墳は昭和57年に調査が実施され、埋葬施設が横穴式石室で、内部から直刀、鉄鏃、櫛・咬具・辻・イモ貝の殻頂部を利用した雲珠などの馬具が出土し、6世紀後半の築造と考えられている<sup>13)</sup>。また、第1号墳は測量調査が実施され、径18mの円墳であることが確認されている<sup>14)</sup>。

奈良・平安時代になると、大谷川流域と瀬沼川東岸の大洗町・成田町の一帯は、鹿島郡大屋郷に比定されている(『新編常陸国誌』)。北山遺跡、大平遺跡、千天遺跡、ヨナ川遺跡、皿沼遺跡、おんだし遺跡で集落跡が調査されており、千天遺跡からは「大屋厨」と墨書された土器が出土している<sup>15)</sup>。また、七日原A遺跡(49)、高岡前遺跡(60)、下太田遺跡などでも土器が採集されている。

鎌倉時代になると、当地は常陸平氏流の鹿島成幹の孫家系である宮崎氏の支配下に、室町時代には畑田氏、江戸氏、佐竹氏一族の東義久の支配下に入ったが、江戸時代には大部分が旗本領となっている。中・近世の遺跡としては、小館跡(16)、大館跡(18)、下太田館跡(34)、天神山館跡(57)などの城館跡、新田前塚(39)などの塚が確認されている。



第1図 大谷川遺跡・天神山古墳群周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「磯浜」「徳宿」）

註

- 1) 茨城新聞社編『茨城県大百科事典』茨城新聞社 1981年10月
- 2) 『角川日本地名大辞典』編纂委員会編『角川地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1983年12月
- 3) 日本の地質「関東地方」編集委員会編『日本の地質 3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 4) 井上義安『北山遺跡 定礎面遺跡』旭村埋蔵文化財発掘調査会 1994年7月
- 5) 長谷川聡『北関東自動車道（友部～水戸）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書 大作遺跡 大畑遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
- 6) 小室弘毅ほか『やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅶ 羽黒山遺跡 大戸富士山遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第279集 2007年3月
- 7) 黒沢泰彦ほか『浜山古墳群発掘調査報告書-1号墳・2号墳-』旭村教育委員会・浜山古墳群発掘調査会 1988年3月
- 8) 4)と同じ
- 9) 井上義安『一本松遺跡』一本松埋蔵文化財発掘調査会 2001年3月
- 10) 荒野克一郎ほか『やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 綱山遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第243集 2005年3月

第1表 大谷川遺跡・天神山古墳群周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山
①	大谷川遺跡	○	○	○	○	○		41	下太田里沼遺跡	○						
②	天神山古墳群				○			42	さんや遺跡	○						
3	南藤太郎遺跡		○	○	○	○		43	尖山B遺跡	○				○		
4	日中内遺跡		○	○		○	○	44	八日山遺跡	○				○		
5	大塚遺跡			○	○	○		45	上釜飛沢B遺跡	○				○		
6	奥吾遺跡		○	○	○			46	上釜飛沢A遺跡	○						
7	旧陣屋遺跡			○	○		○	47	沢尻飛沢遺跡	○						
8	旧陣屋古墳				○			48	尖山A遺跡	○						
9	松川陣屋跡							49	七日原A遺跡	○				○		
10	ヨナ川遺跡		○	○	○	○	○	50	遠原遺跡	○				○	○	○
11	椎木下遺跡		○	○	○	○		51	古山道遺跡					○	○	○
12	椎木古墳				○			52	仲太田遺跡					○	○	○
13	居尻遺跡		○	○	○	○		53	明烏舞山遺跡	○	○	○	○	○	○	○
14	成田塙遺跡		○	○		○	○	54	仲太田B遺跡	○	○					
15	エモテ遺跡					○		55	天神道B遺跡				○		○	○
16	小館跡						○	56	天神道遺跡	○				○	○	○
17	小館遺跡		○	○	○	○		57	天神山館跡						○	
18	大館跡						○	58	和田台遺跡					○	○	
19	大館遺跡			○		○		59	仙神上A遺跡	○			○	○	○	○
20	石塚遺跡		○	○	○	○	○	60	高岡前遺跡	○			○	○		
21	国屋遺跡					○		61	仙神上C遺跡	○			○	○		
22	おんだし遺跡		○	○	○	○		62	白轡遺跡	○				○		
23	館山館跡						○	63	仙神上B遺跡	○				○		
24	高塚A遺跡		○					64	出山遺跡					○	○	○
25	南向B遺跡		○			○		65	ミスマ遺跡	○					○	○
26	南向A遺跡		○		○	○		66	箕輪中丸遺跡	○				○		
27	里沼遺跡		○	○		○		67	田向遺跡	○		○				
28	尖山C遺跡			○				68	矢神遺跡	○				○		
29	高塚B遺跡		○					69	左道内遺跡					○	○	○
30	南向C遺跡		○					70	大塚A遺跡	○						
31	北山遺跡	○		○	○		○	71	西台遺跡	○						
32	太田山遺跡				○			72	大塚B遺跡	○				○		
33	館遺跡				○			73	向遺跡					○	○	
34	下太田館跡						○	74	滑石遺跡	○				○	○	○
35	下太田遺跡		○		○	○		75	大平遺跡	○			○	○		
36	金弓館遺跡		○				○	76	松虫遺跡	○						
37	茶畑遺跡					○	○	77	大和田遺跡	○						
38	下太田古墳群					○		78	千葉遺跡						○	
39	新田前塚						○	79	和田台古墳					○		
40	山野道添遺跡		○			○	○	80	慈綱遺跡	○						

- 11) 中村敬治ほか「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚古墳・後原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集 1998年3月
- 12) 7)に同じ
- 13) 和田正年ほか「天神山古墳群（4号墳）旭村教育委員会・天神山古墳群発掘調査会 1983年3月
- 14) 天野早苗「天神山古墳群第1号墳測量の測量調査報告」『研究ノート 第18号』公益財団法人茨城県教育財団 2021年8月
- 15) 寺内久永「主要地方道大洗友部線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書 千天遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第384集 2014年3月

#### 参考文献

- 平石尚和ほか「主要地方道大洗友部線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 天神道B遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第463集 2022年1月  
茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図』2023年3月  
旭村史編さん委員会『旭村の歴史 通史編』旭村教育委員会 1998年3月  
大洗町史編さん委員会『大洗町史（通史編）』大洗町 1986年3月  
茨城町史編さん委員会『茨城町史 通史編』茨城町 1995年2月



## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

大谷川遺跡と天神山古墳群は、銚田市の北部に位置し、澗沼南側の標高約20mの台地上に立地している。当遺跡は、東西220m、南北120mの範囲で、調査区はその北東部にあたる。調査面積は3,279㎡で、調査前の現況は山林と畑地である。

調査の結果、竪穴建物跡4棟（古墳時代）、竪穴遺構1基（古墳時代）、古墳2基（古墳時代）、陥し穴1基（縄文時代）、土坑41基（古墳時代12、時期不明29）、石器集中地点2か所（旧石器時代）、溝跡2条（時期不明）を確認した。

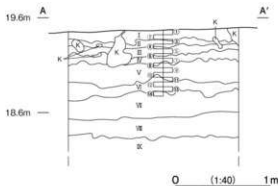
遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に19箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、弥生土器（広口壺・壺）、土師器（坏・蓋・器台・高坏・鉢・壺・甕）、須恵器（坏・瓶・甕）、土製品（管状土錘・球状土錘・丸玉）、石器（ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・石核・剥片・石鏃・磨製石斧・磨石・敲石・砥石）、金属製品（耳環・鉄砲玉・不明鉄製品）などである。

### 第2節 基本層序

調査区（D124区）にテストピットを設定し、基本土層（第2図）の観察を行った。以下、各層の特徴を述べる。なお、ローム層の自然科学分析の結果は、付章に掲載した。

第Ⅰ層は、褐色を呈するローム漸移層である。炭化粒子を極微量、黒色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに普通である。層厚は7～16cmである。第Ⅱ層は、褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに普通である。層厚は5～10cmである。第Ⅲ層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに普通である。層厚は5～12cmである。第Ⅳ層は、暗褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子と白色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに強い。層厚は5～14cmである。第Ⅴ層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子と白色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに強い。層厚は8～37cmである。第Ⅵ層は、オリーブ褐色を呈するハードローム層である。鹿沼バミスを中量、黒色粒子を微量含む。粘性は普通で、締まりは極めて強い。層厚は6～20cmである。第Ⅶ層は、明黄褐色を呈する鹿沼軽石層である。鹿沼バミスを多量、黒色粒子とハードロームブロックを微量含み、粘性は弱く、締まりは普通である。層厚は15～30cmである。第Ⅷ層は、暗褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに強い。層厚は14～28cmである。第Ⅸ層は、暗褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに強い。層厚は18cmまで確認した。

旧石器時代の遺物は第Ⅳ層を中心に、縄文時代以降の遺構は第Ⅰ層上面で確認した。



第2図 基本土層図（遺構全体図参照）

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 旧石器時代の遺構と遺物

石器集中地点2か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

##### 石器集中地点

##### 第1号石器集中地点（第3・4図 第2・3表 PL1・6）

**出土位置** 調査区西部のD8g6～D8g9区、標高21mほどの台地上に位置している。

**出土層位** 基本層序の第Ⅱ層から第Ⅲ層にかけて出土している。

**出土状況** 石器は東西10.6m、南北4.5mの範囲に分布している。平面分布からは、散在した状況が認められ、密集した状況は確認できなかった。垂直分布からは、標高20.677～21.146m、平均標高は20.990mで、垂直分布の最大幅は約47cmである。石材別の分布状況は、流紋岩がD8g8区の北西部から1点、ガラス質黒色安山岩はD8g6区の南部から2点、D8h6区の北西部とD8g8区の北東部、D8g7区のローム層中からそれぞれ1点が出土している。頁岩はD8g7区のローム層中から5点出土している。

**出土遺物** 石器11点（122.38g）が出土している。石器の器種構成は、二次加工のある剥片1点（31.99g）、剥片8点（76.81g）、砕片1点（0.09g）、礫片1点（13.49g）である。石材構成は、ガラス質黒色安山岩5点（95.77g）、頁岩5点（24.96g）、流紋岩1点（1.65g）である。同じ石材同士の接合関係は認められず、また、石核や製品などは、確認できなかった。

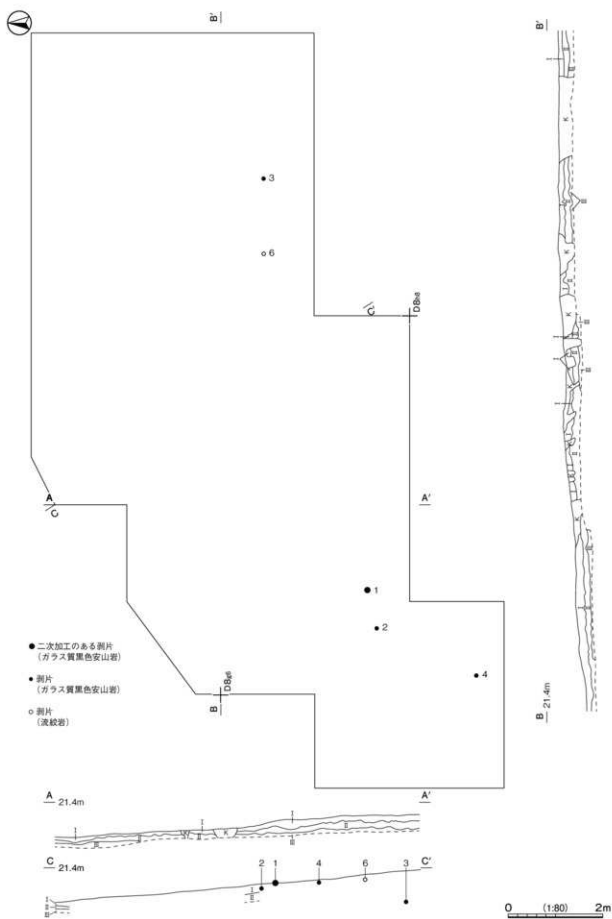
**所見** ローム層の自然科学分析の結果、当遺跡で確認したローム層の第Ⅳ・Ⅴ層が北関東地域に広く認められる暗色帯にはほぼ対比できること、第Ⅳ層が概ねA T降灰層準にあたることが判明した。接合関係が認められず、石核なども確認できなかったため、本地点の性格は不明である。時期は出土層位からA T降灰期以降と考えられる。

第2表 第1号石器集中地点出土遺物一覧（第4図）

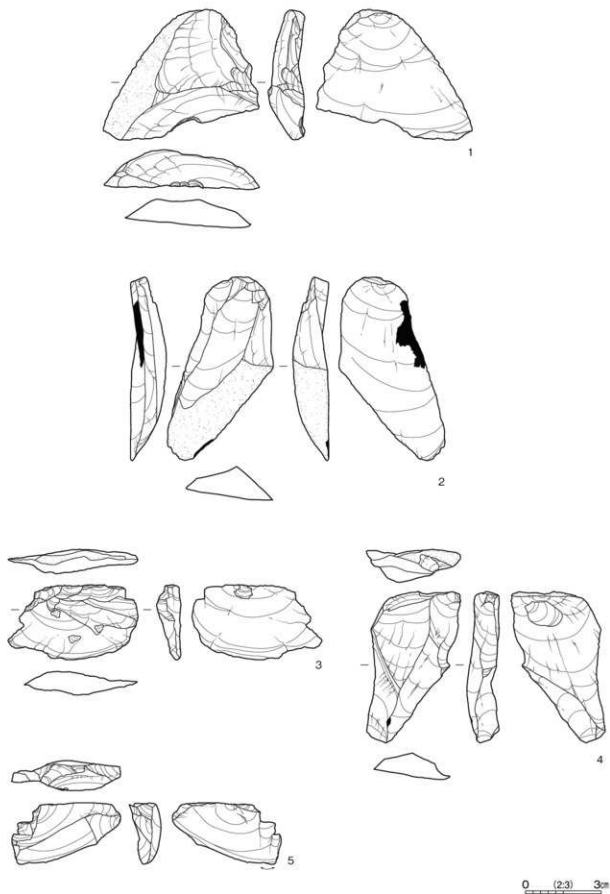
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	X座標	Y座標	Z座標	備考 (出処番号)
1	二次加工のある剥片	5.2	6.2	1.5	31.99	ガラス質黒色安山岩	横長剥片 自然面打面 下端縁部背面側面からの剥離痕 背面多方向の剥離痕 自然面残す	29732963	61982184	21.082	PL 6 (5)
2	剥片	7.3	4.2	1.4	29.08	ガラス質黒色安山岩	横長剥片 単調離面打面 背面同一方向の剥離痕 自然面残す	29732716	61981448	20.957	PL 6 (6)
3	剥片	3.0	5.2	1.0	12.02	ガラス質黒色安山岩	横長剥片 自然面打面 背面連続した打面周縁調整	29735131	61990882	20.677	PL 6 (2)
4	剥片	6.0	3.7	1.3	22.59	ガラス質黒色安山岩	縦長剥片 自然面打面 背面多方向からの剥離痕	29736617	61980444	21.086	PL 6 (7)
5	剥片	2.5	4.3	1.3	9.21	頁岩	横長剥片 打面縁部と背面縁部の一部に微細剥離痕 微細離面打面			D 8g7	PL 6 (4)

第3表 第1号石器集中地点未掲載出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	X座標	Y座標	Z座標	備考 (出処番号)
6	剥片	2.7	1.2	0.6	1.65	流紋岩	横長剥片 自然面残す	29735119	61989290	21.146	(1)
7	剥片	1.6	1.0	0.5	0.52	頁岩	節理面と自然面残す			D 8g7	(4)
8	剥片	1.8	1.1	0.4	0.46	頁岩	単調離面断面 9と同一母岩			D 8g7	(4)
9	剥片	1.4	1.4	0.8	1.28	頁岩	打点部切断 8と同一母岩			D 8g7	(4)
10	砕片	1.1	0.7	0.1	0.09	ガラス質黒色安山岩	細状打面			D 8g7	(3)
11	礫片	3.6	2.1	1.7	13.49	頁岩	節理面と自然面残す			D 8g7	(4)



第3図 第1号石器集中地点実測図



第4图 第1号石器集中地点出土物实测图

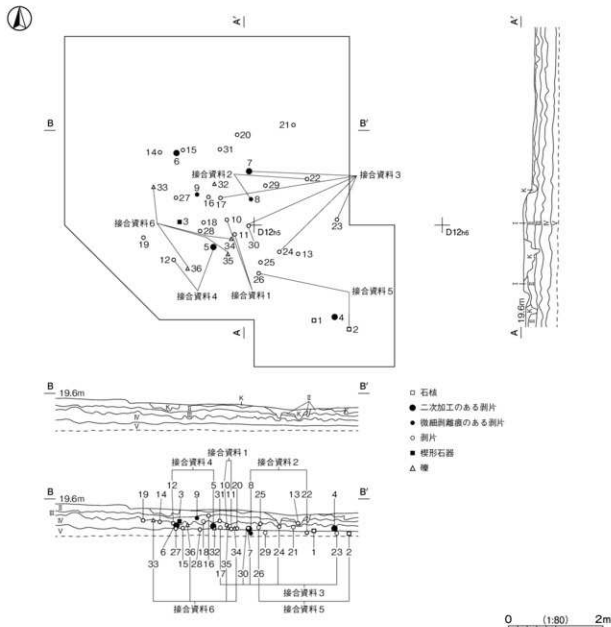
第2号石器集中地点 (第5～10図 第4～6表 PL 1・6～8)

**出土位置** 調査区西部のD12g4～D12h5区、標高20mほどの台地上に位置している。

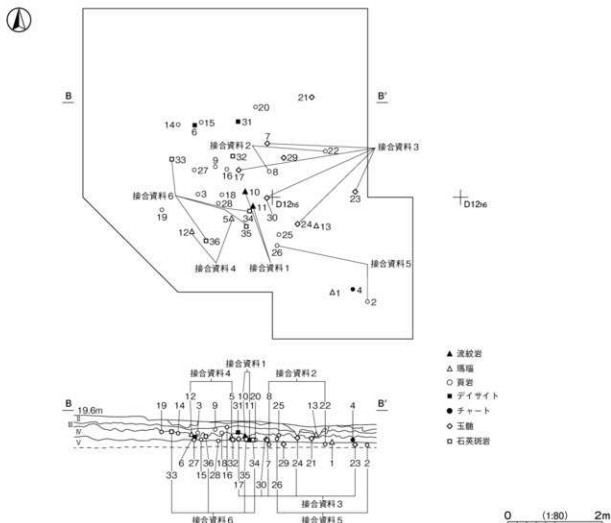
**重複関係** 本地点上に、第4号竪穴建物、第37・39・41号土坑、第5号墳が構築されている。

**出土層位** 基本層序の第IV層を中心に、第III層から第V層にかけて出土している。

**出土状況** 石器は東西4.4m、南北4.4mの範囲に分布している。平面分布からは、D12h5グリッド付近に密集した状況が認められる。垂直分布からは、標高18858～19237m、平均標高は19010mで、垂直分布の最大幅は約38cmである。石材別の分布状況は、頁岩はD12h5グリッドを中心に半径約2.7mの範囲から15点が出土している。瑪瑙はD12h4区とD12h5区から各2点、流紋岩はD12h5グリッドの西側から2点、アイサイトはD12g4区の中央部と東部からそれぞれ1点、チャートはD12h5区の中央部から1点が出土している。玉髄はD12g4～D12h5区にかけて7点が出土している。石英斑岩はD12g4区の南東部から2点と隣接するD12h4区から3点が出土している。



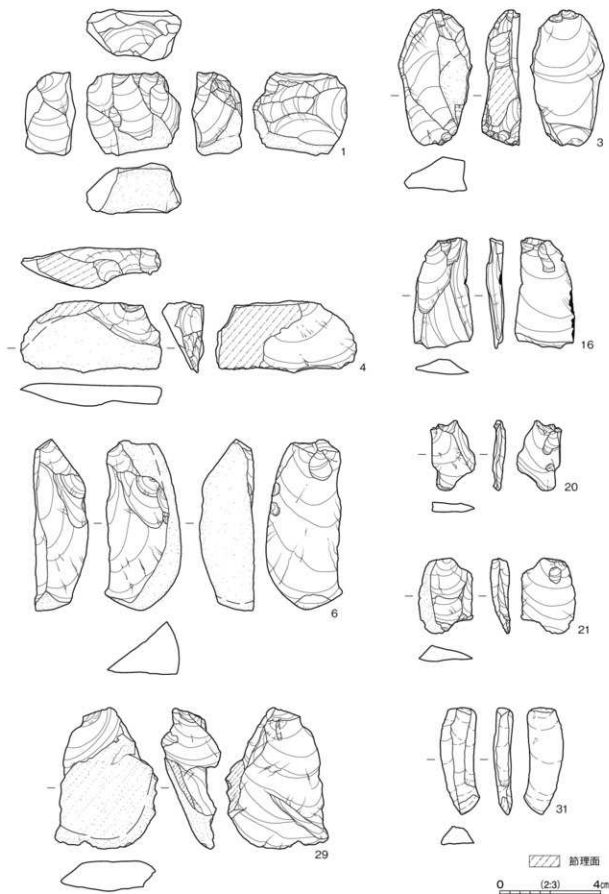
第5図 第2号石器集中地点実測図(1)



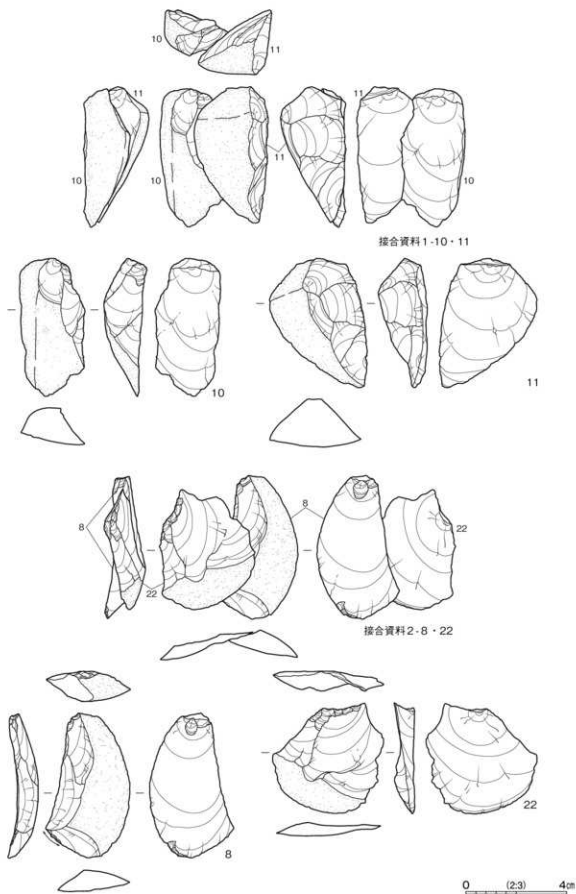
第6図 第2号石器集中地点実測図(2)

**出土遺物** 石器31点(341.22g)と礫5点(4766.4g)が出土している。石器の器種構成は、石核2点(48.70g)、楔形石器1点(19.88g)、二次加工のある剥片4点(86.56g)、微細剥離痕のある剥片2点(19.97g)、剥片22点(166.11g)である。石材構成は、頁岩15点(92.17g)、チャート1点(24.01g)、瑪瑙4点(44.16g)、流紋岩2点(46.98g)、デイサイト2点(49.71g)、玉髓7点(84.19g)、石英斑岩5点(4766.4g)である。接合資料1は距離0.35m、比高差7.7cmの流紋岩製剥片2点、接合資料2は距離1.28m、比高差1.1cmの頁岩製剥片2点、接合資料3は距離が最短0.89m、最長2.50m、比高差最大14.7cmの玉髓製剥片5点が接合している。接合資料4は距離0.90m、比高差5.9cmの瑪瑙製剥片2点、接合資料5は距離約2.26m、比高差13.6cmの頁岩製石核と剥片の2点が接合している。接合資料6は距離が最短約0.33m、最長2.12m、最大比高差17.0cmの被熱を受けた礫片(石英斑岩)4点が接合している。

**所見** ローム層の自然科学分析の結果、当遺跡で確認したローム層の第IV層が概ねA T降灰層準にあたることが判明した。時期は出土層位からA T降灰期前後と考えられる。製品としては、頁岩製楔形石器があり、小規模な礫群を伴い在地石材で構成されていることなどから、A T降灰期以前の角錐状石器出現期以前の石器群の可能性が有る。性格は、石器の出土範囲が狭く、5割近くに接合関係が認められることから、東方向へ下がる緩斜面を利用した石器製作跡と考えられる。

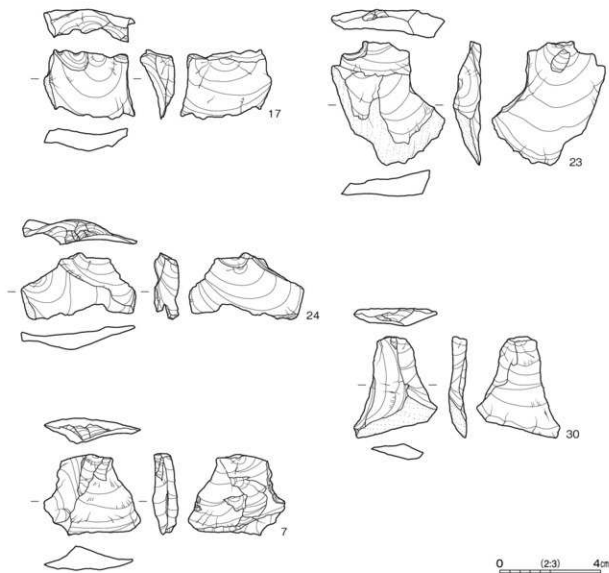
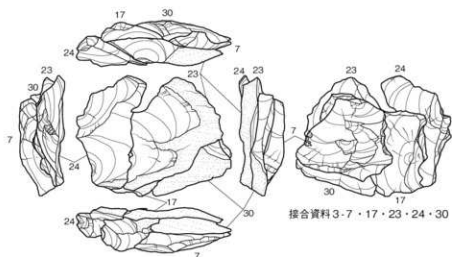


第7图 第2号石器集中地点出土物实测图(1)

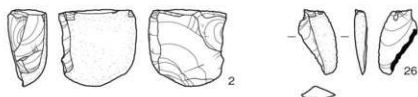
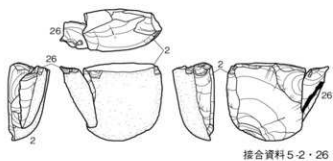


第 8 图 第 2 号石器集中地点出土物实测图 (2)

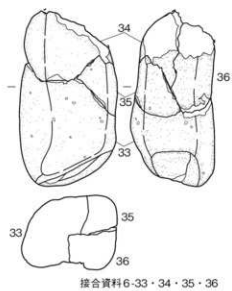
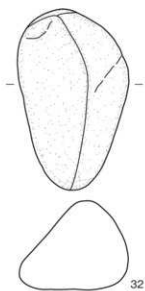




第9圖 第2号石器集中地点出土物実測圖(3)



0 (2:3) 4cm



0 (1:4) 10cm

第10図 第2号石器集中地点出土遺物実測図(4)

第4表 第2号石器集中地点出土遺物一覧(第7~10図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	X座標	Y座標	Z座標	備考 (台帳番号)
1	石核	3.3	3.7	1.9	28.49	瑪瑙	小型石核 打面2か所 自然面残す	2929.981	623.375	18316	PL 8 (31)
2	石核	3.1	3.1	1.6	20.21	頁岩	小型石核 単調磨面打面 自然面残す	2929.796	623.380	18328	PL 8 (36)
3	楔形石器	5.4	2.9	1.6	19.88	頁岩	素材は縦長割片 両面向する調離痕	2932.065	623.4429	19117	PL 6 (15)
4	二次加工のある割片	2.9	5.6	1.7	24.01	チャート	素材は縦長割片 複調離面打面 右側縁部に連続した調離痕 背面右側に調離痕と打面縁調整痕が自然面残す	2930.652	623.3711	18965	PL 6 (28)
5	二次加工のある割片	3.0	2.4	1.3	7.49	瑪瑙	素材は縦長割片 打点部・両側縁部に調離痕 背面はほぼ自然面	2931.535	623.3545	19016	PL 7 (28)
6	二次加工のある割片	6.8	3.0	2.2	45.54	デイサイト	縦長割片 単調磨面打面 背面多方向の調離痕 右側縁部不連続な調離痕 自然面残す	2933.524	623.34364	19033	PL 6 (7)
7	二次加工のある割片	3.2	3.8	1.0	9.52	玉髄	横長割片 複調離面打面 背面二方向の調離痕 左側縁部連続した調離痕	2933.137	623.3590	18964	PL 7 (29)
8	二次加工のある割片	5.7	3.4	1.2	15.15	頁岩	縦長割片 単調磨面打面 背面多方向の調離痕 下部縁部連続した調離痕 自然面残す	2932.547	623.3540	18868	PL 7 (34)
9	割片	3.5	2.6	1.7	19.57	流紋岩	横長割片 単調磨面打面 背面同一方向の調離痕 自然面残す	2932.110	623.35430	19037	PL 7 (13)
11	割片	5.1	3.9	2.0	27.41	流紋岩	縦長割片 単調磨面打面 背面多方向の調離痕 自然面残す	2931.701	623.3525	18900	PL 7 (19)
12	割片	2.8	1.8	1.2	3.35	瑪瑙	自然面打面 背面はほぼ自然面	2933.263	623.34303	19075	PL 8 (17)
16	割片	4.4	2.4	0.7	6.58	頁岩	縦長割片 背面多方向の調離痕 自然面残す	2932.594	623.35041	19227	PL 6 (11)
17	割片	2.7	3.6	1.3	7.84	玉髄	複調離面打面 背面同一方向の調離痕 自然面を残す	2932.573	623.35294	18992	PL 7 (12)
20	割片	2.8	1.8	0.4	1.75	頁岩	縦長割片 単調磨面打面 左側縁部断 背面多方向の調離痕 自然面残す	2933.911	623.3569	18973	PL 6 (20)
21	割片	3.0	2.2	0.8	4.01	玉髄	縦長割片 単調磨面打面 背面同一方向の調離痕 整合痕を有し同一母岩	2934.116	623.36840	18999	PL 6 (16)
22	割片	4.4	4.4	0.8	10.07	頁岩	横長割片 単調磨面打面 背面同一方向の調離痕 自然面残す	2932.975	623.3728	18879	PL 7 (22)
23	割片	4.9	4.5	1.1	15.71	玉髄	縦長割片 背面多方向の調離痕 右側縁背面側からの割痕・7の打面	2932.113	623.37261	18866	PL 7 (25)
24	割片	2.6	4.5	1.0	6.89	玉髄	横長割片 背面二方向の調離痕 自然面残す	2933.432	623.36541	19013	PL 7 (25)
26	割片	2.6	1.5	0.5	1.51	頁岩	縦長割片 単調磨面打面 自然面残す	2933.977	623.36106	18994	PL 8 (27)
29	割片	5.6	4.1	2.3	34.61	玉髄	縦長割片 複調離面打面 背面同一方向の調離痕 自然面残す	2932.835	623.36246	18884	PL 6 (3)
30	割片	4.0	3.3	0.7	5.61	玉髄	縦長割片 複調離面打面 背面二方向の調離痕 自然面残す	2933.983	623.35889	18978	PL 7 (23)
31	割片	4.2	1.6	0.8	4.17	デイサイト	縦長割片 単調磨面打面 背面同一方向の調離痕 風化表面	2933.662	623.35282	19126	PL 6 (19)
32	礫	19.1	11.3	9.4	2503.3	石英英岩	全面被熱痕	2932.805	623.35167	18971	(2)
33	礫片 (130)	10.2	8.8	14.07	3石英英岩	表面・調離面被熱痕	2932.806	623.33876	19143	(1)	
34	礫片 (82)	9.4	4.7	35.37	3石英英岩	表面・調離面被熱痕	2933.802	623.35295	18973	(3)	
35	礫片 (65)	4.2	4.8	10.36	3石英英岩	表面・調離面被熱痕	2933.378	623.35432	18981	(4)	
36	礫片 (95)	9.9	4.4	36.51	3石英英岩	表面・調離面被熱痕	2933.071	623.34601	19042	(5)	

第5表 第2号石器集中地点接合資料一覧(第8~10図)

番号	遺物番号	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	接合距離 (m)	比高差 (m)	備考 (台帳番号)
接合資料1	10・11	5.6	4.3	2.6	46.98	流紋岩	割片同士	0.35	7.7	PL 7 (13) (19)
接合資料2	8・22	5.7	5.5	1.6	25.22	頁岩	微細調離痕のある割片と割片	1.28	1.1	PL 7 (34) (22)
接合資料3	7・17・23・24・30	4.8	6.1	1.8	45.57	玉髄	縦0.89長2.50	14.7	PL 7 (32) (12) (23) (25) (35)	
接合資料4	5・12	5.4	2.4	1.3	10.84	瑪瑙	二次加工のある割片と割片	0.90	5.9	PL 8 (18) (17)
接合資料5	2・26	3.1	4.0	1.6	21.72	頁岩	石核と割片	2.26	13.6	PL 8 (36) (27)
接合資料6	33・34・35・36	(18.6)	10.2	9.0	2283.1	石英英岩	礫片同士	縦0.33長2.12	17.0	(1) (3) (4) (5)

第6表 第2号石器集中地点未掲載出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	X座標	Y座標	Z座標	備考 (台帳番号)
9	微細調離痕のある割片	3.0	1.9	1.5	4.82	頁岩	素材は横長割片 単調磨面打面 背面多方向の調離痕 微細調離痕	2932.646	623.34799	19188	(10)
13	割片	3.3	1.6	1.0	4.83	瑪瑙	素材は縦長割片 複調離面打面 背面同一方向の調離痕 左側面背面側からの割離痕 自然面残す	2931.300	623.36928	19075	(24)
14	割片	3.2	1.3	0.8	4.13	頁岩	縦長割片 線状打面 自然面残す 接合資料5と同一母岩	2933.537	623.34012	19105	(6)
15	割片	2.2	1.6	0.4	2.17	頁岩	縦長割片 単調磨面打面 背面同方向の調離痕 下部縁部断からの割痕 自然面残す 接合資料5と同一母岩	2933.586	623.34499	18979	(8)
18	割片	1.3	1.1	0.1	0.17	頁岩	打点部折断 自然面残す	2932.034	623.34937	19120	(14)
19	割片	2.7	1.8	0.6	2.18	頁岩	横長割片 単調磨面打面 背面多方向からの調離痕 接合資料5と同一母岩	2933.734	623.33665	19135	(16)
25	割片	2.0	1.3	0.5	1.13	頁岩	複調離面打面 背面多方向の調離痕 接合資料2と同一母岩	2933.210	623.36143	19067	(26)
27	割片	1.4	1.1	0.3	0.32	頁岩	複調離面打面 接合資料2と同一母岩	2932.577	623.34332	18966	(29)
28	割片	2.6	1.2	0.8	2.10	頁岩	縦長割片 単調磨面打面 接合資料5と同一母岩	2933.874	623.34863	18950	(30)

## 2 縄文時代の遺構と遺物

陥し穴1基を確認した。以下、遺構について記述する。

### 陥し穴

#### 第1号陥し穴(第11図 PL 2)

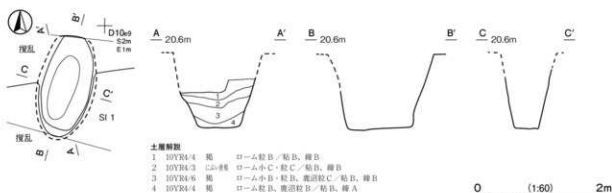
**位置** 調査区中央部のD10e9区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第1号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 攪乱や重複のため、確認できた規模は長径1.66m、短径0.92mである。平面形は楕円形で、主軸方向はN-13°-Eである。深さは120cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 4層に分類できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**所見** 遺物が出土していないため、時期は明確に特定できないが、特徴的な形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第11図 第1号陥し穴実測図

## 3 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡4棟、竪穴遺構1基、土坑12基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

### (1) 竪穴建物跡

#### 第1号竪穴建物跡(第12・13図 第7表 PL 2・8)

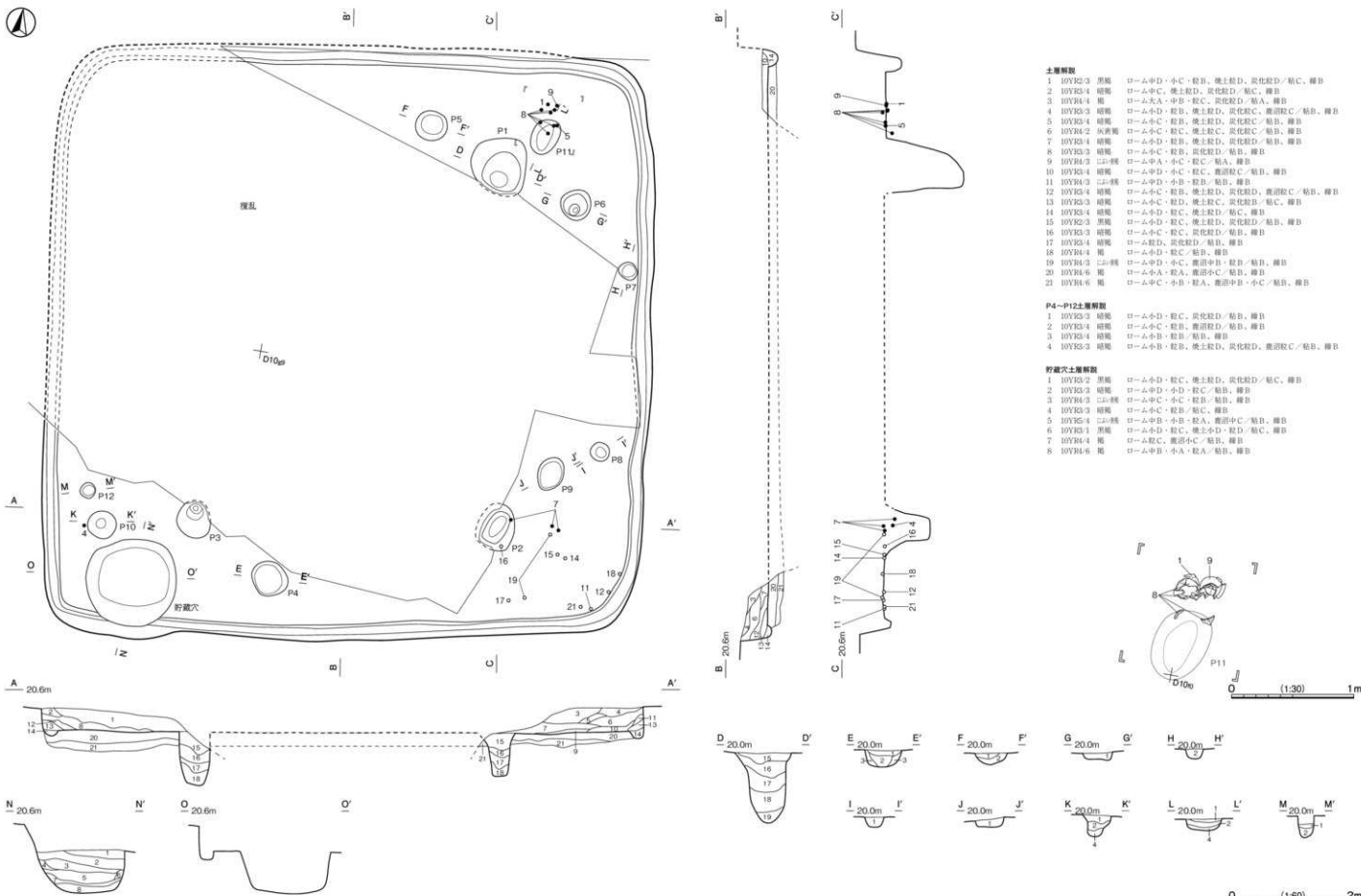
**位置** 調査区中央部のD10g9区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第1号陥し穴を掘り込んでいます。

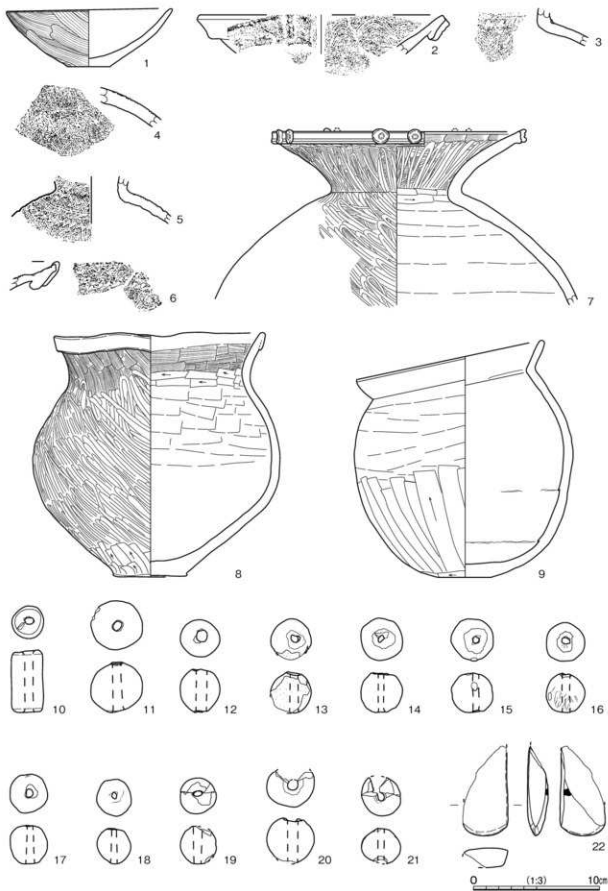
**規模と形状** 攪乱のため、確認できた規模は長軸9.83m、短軸9.73mである。平面形は隅丸方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁は高さ最大44cmで、直立している。

**床** 確認できた範囲では平坦で、硬化はしていない。壁溝が貯蔵穴の南側を除いて巡っている。貼床は地山を最大35cmほど掘り下げ、ロームブロックを含む第20・21層を埋土して構築している。

**ピット** 12か所。P1～P3は深さ72～120cmで、配置から主柱穴である。P1・P2は上部が広がっており、覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。P4は深さ32cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5～P12は、深さ14～36cmで、性格は不明である。覆土は、いずれもロームブロックや鹿沼バミスを含むことから、人為堆積である。



第12圖 第1号貯穴建物跡実測圖



第13图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図

**貯蔵穴** 南西コーナーからやや東寄りに位置している。長軸148cm、短軸143cmの隅丸方形で、深さ72cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。覆土は8層に分層でき、ロームブロックや鹿沼バミスを含むことから、人為堆積である。

**覆土** 14層に分層できる。ロームブロックや鹿沼バミスを含むことから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 弥生土器片50点（大口壺）、土師器片499点（器台12、高坏27、鉢1、壺147、甕312）、土製品12点（管状土錘1、球状土錘11）、石器2点（ホルンフェルス製磨製石斧、砥石）が出土している。ほかに混入した須恵器片27点（坏2、瓶11、長頸瓶13、甕1）、石器4点、礫1点、鉄製品1点、瓦1点が出土している。遺物は主に北東・南東コーナー部から出土している。1・8・9は北東コーナー部の床面から密集して横位の状態で出土している。7は南東コーナー部の床面とP2の覆土上層から、11・12・14～19・21は狭い範囲にまとまって床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期前葉と考えられる。

第7表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	鉢	130	4.6	3.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目 内面ナデ	床面	100% PL 8
2	土師器	壺	[194]	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	二重口縁部 口縁部外面ヘラナデ後縁状浅文 2条1筋彫付（内1条ハナレ）内面ヘラナデ後縁部状工具による連続状浅文	覆土	5%
3	土師器	壺	-	(3.1)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面ハケ目後磨き 赤彩 体部外面ハケ目縁部短脚突文・磨面状工具による連続状浅文 内面ヘラナデ	覆土	5%
4	土師器	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面赤彩 7条の櫛歯状工具による直線文・波状文	掘方	5%
5	土師器	壺	-	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	外面ハケ目調整痕、5条の櫛歯状工具による直線文・波状文	床面	5%
6	土師器	壺	-	(2.3)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口部縁部浅文 内面刺突文・3条の櫛歯状工具による波状文	覆土	5%
7	土師器	壺	19.5	(14.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口部部内彫突文 口縁部内外面ハケ目後磨き 体部外面ハケ目後磨き 体部内面ヘラナデ	床面 P 2 覆土上層	20% PL 8
8	土師器	甕	16.2	19.3	5.6	長石・石英	橙	普通	折り返し口縁 口縁部内面ハケ目後ナデ 頸部外面ハケ目 内面ヘラナデ 体部外面磨き 下縁ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面 P11 覆土下層	90% PL 8
9	土師器	甕	14.7	18.8	4.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部一帯部外面上平ナデ 体部外面下平ヘラナデ 体部内面磨面	床面	90% PL 8

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	管状土錘	2.6	5.0	0.8	(40.33)	長石・石英	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 両端部平滑	覆土	
11	球状土錘	4.1	4.0	0.7	(57.03)	長石・石英	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
12	球状土錘	3.3	3.4	0.8	29.56	長石・石英	明褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
13	球状土錘	3.3	3.2	0.8	(29.79)	長石・石英	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面一部剥落	覆土	
14	球状土錘	3.3	3.1	0.5	33.29	長石・石英	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
15	球状土錘	3.4	3.1	0.5	32.72	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
16	球状土錘	3.1	3.1	0.6	28.19	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
17	球状土錘	3.1	3.0	0.7	27.81	長石・石英	黒褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
18	球状土錘	2.9	2.8	0.5	20.44	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
19	球状土錘	2.9	3.0	0.8	(22.30)	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	
20	球状土錘	3.8	3.6	0.8	(30.88)	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 一部欠損	覆土	
21	球状土錘	3.1	(2.8)	0.5	(18.02)	長石・石英・赤色粒子	黒褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
22	磨製石斧	(7.1)	(3.6)	(1.7)	(41.29)	ホルンフェルス	下部に敲打調整 全面研磨 刃部欠損	覆土	

## 第2号竪穴建物跡 (第14～18図 第8表 PL2・8～10)

**位置** 調査区東部のD11h3区、標高21mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 視乱のため、確認できた規模は長軸5.82m、短軸4.85mである。平面形は隅丸方形と推定でき、主軸方向はN-13°-Eである。壁は高さ最大45cmで、直立している。

**床** 確認できた範囲では平坦で、壁際を除いて硬化している。貼床は地山を最大20cmほど掘り下げ、ロームブロックを多く含む第11層を埋土して構築している。

**炉** 中央部西寄りに位置している。長径150cm、短径80cmの不整形円形で、深さ最大6cmの凹凸がある地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

**ピット** 13か所。P1～P3は深さ65～70cmで、配置から主柱穴である。いずれも柱を抜き取っている。覆土は周囲からの流入土である。P4は深さ13cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5～P13は深さ10～55cmで、性格は不明である。

**貯蔵穴** 南西コーナー部に位置している。長径65cm、短径52cmの楕円形で、深さは35cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。

**覆土** 10層に分層できる。第1～6層はローム粒子とロームブロックを少量含み、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第7～9層は、床上に水平に堆積している不自然な状況から、人為堆積と考えられる。

**遺物出土状況** 土師器片586点(坏4、器台28、高坏8、鉢1、壺51、甕493、手握土器1)、土製品42点(管状土鍾4、球状土鍾38)、石器2点(砂岩製敲石、粘板岩製砥石)、不明石製品1点が出土している。ほかに混入した石器1点、礫2点、軽石2点が出土している。1・4・8は中央部やや北壁寄り、6は南西コーナー部の覆土下層から、10・15は北東部の床面から、それぞれ出土している。13は中央部南寄りと貯蔵穴付近、14は南西コーナー部の床面とP3付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。球状土鍾は炉の周辺と北東コーナー寄り、南壁中央部付近、南西コーナー部付近などの3か所から比較的まとまって出土している。出土層位では、床面から覆土下層にかけて出土した遺物が多い。21・24・27・33・37は覆土上層から出土している。北部と壁際にかけての覆土下層から、焼土層7か所を確認した。また、炉床面から炭化材が2点出土している。樹種同定の結果、試料No.1は不明で、試料No.2はブナ科リ属と同定された。年代測定の結果、補正年代で試料No.1が1865 ± 20yrBP、試料No.2が1915 ± 20yrBPであった(付参参照)。

**所見** 時期は、出土土器から前期前葉と考えられる。

### 土層解説

1	10YR2/2	黒褐色	ローム小D・粒D、焼土粒D/粘B、雜B
2	10YR3/3	暗褐色	ローム小D・粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B
3	10YR4/2	灰黄褐色	ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B
4	10YR4/3	こみ-雑	ローム小D・粒C、焼土中D・粒D、炭化粒D/粘B、雜B
5	10YR4/4	黄	ローム粒C、焼土中D・小D・粒C、炭化粒D/粘B、雜B
6	10YR4/6	黄	ローム小C・粒B、焼土中C・小B・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
7	10YR5/6	黄褐色	ローム中C・小B・粒A、焼土中C・小B・粒B、炭化粒C/粘B、雜B
8	10YR5/4	こみ-雑	ローム小B・粒A、焼土小C・粒C、炭化粒C/粘B、雜B
9	10YR2/2	黒褐色	ローム粒C、焼土粒D、炭化粒A/粘B、雜B
10	10YR2/3	黒褐色	ローム小D・粒C、焼土粒C、炭化粒A/粘C、雜C
11	10YR4/4	黄	ローム小B・粒B、焼土粒C、炭化粒D/粘C/粘B、雜B

### 伊土層解説

1	10YR2/3	黒褐色	ローム小D・粒C、焼土粒C、炭化粒A/粘C、雜C
---	---------	-----	--------------------------

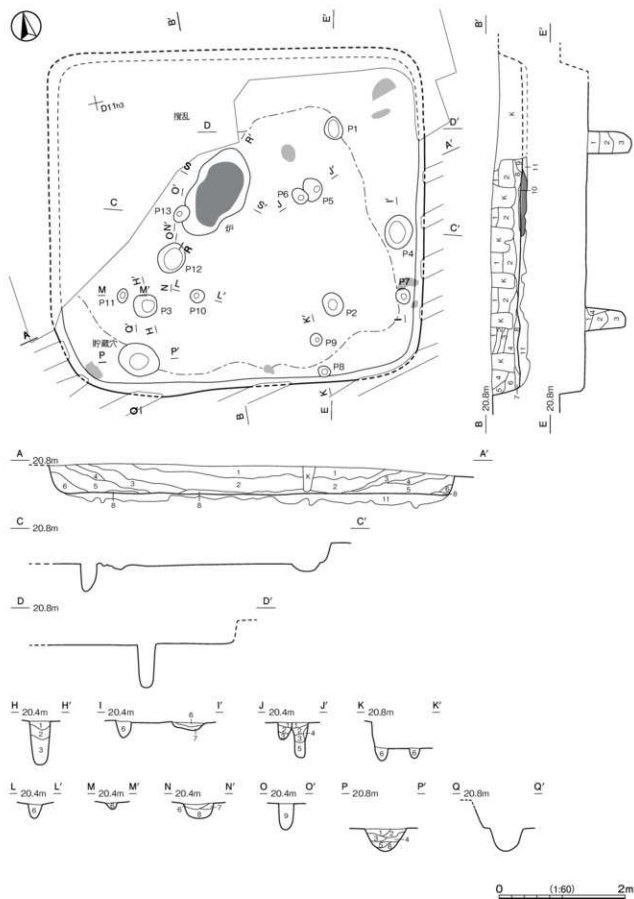
### ピット土層解説 (各ピット共通)

1	10YR3/2	黒褐色	ローム小C・粒C、炭化粒C/粘C、雜C
2	10YR4/3	こみ-雑	ローム中C・小D・粒C、炭化粒D/粘B、雜C
3	10YR3/4	暗褐色	ローム中B・小B/粘B、雜C
4	10YR4/4	暗褐色	ローム中B・小A/粘B、雜B
5	10YR3/3	暗褐色	ローム小C・粒C/粘B、雜B
6	10YR3/2	暗褐色	ローム小C・粒C/粘B、雜C
7	10YR4/4	暗褐色	ローム中D・小C・粒B/粘B、雜B
8	10YR4/6	暗褐色	ローム中A・小B/粘B、雜B
9	10YR2/3	暗褐色	ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B

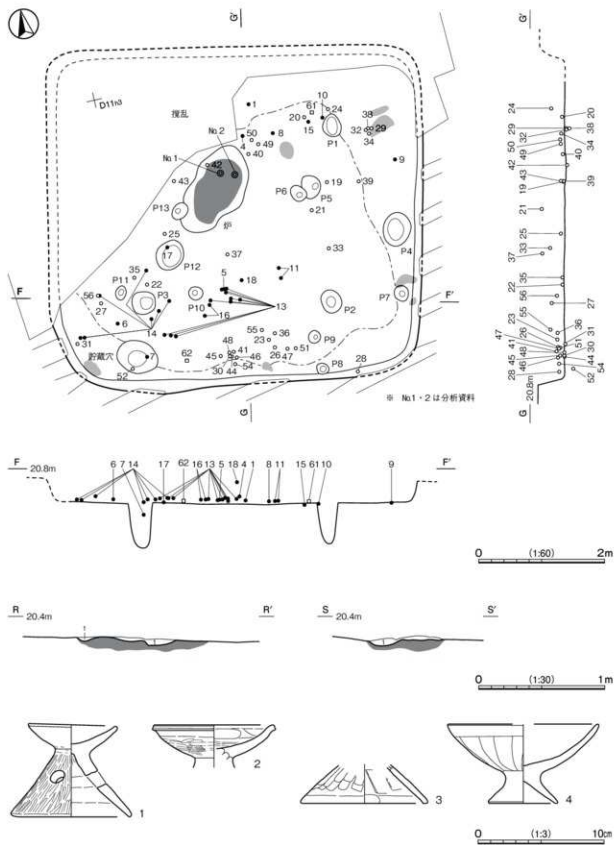
### 貯蔵穴土層解説

1	10YR3/4	暗褐色	ローム小D・粒C、焼土小D・粒D、炭化粒D/粘B、雜C
2	10YR3/2	暗褐色	ローム小D・粒C、焼土粒C、炭化粒C/粘B、雜C
3	10YR2/3	暗褐色	ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜C
4	10YR3/3	暗褐色	ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜C
5	10YR3/2	暗褐色	ローム小D・粒C/粘B、雜C
6	10YR3/4	暗褐色	ローム中D・小C・粒B/粘B、雜B

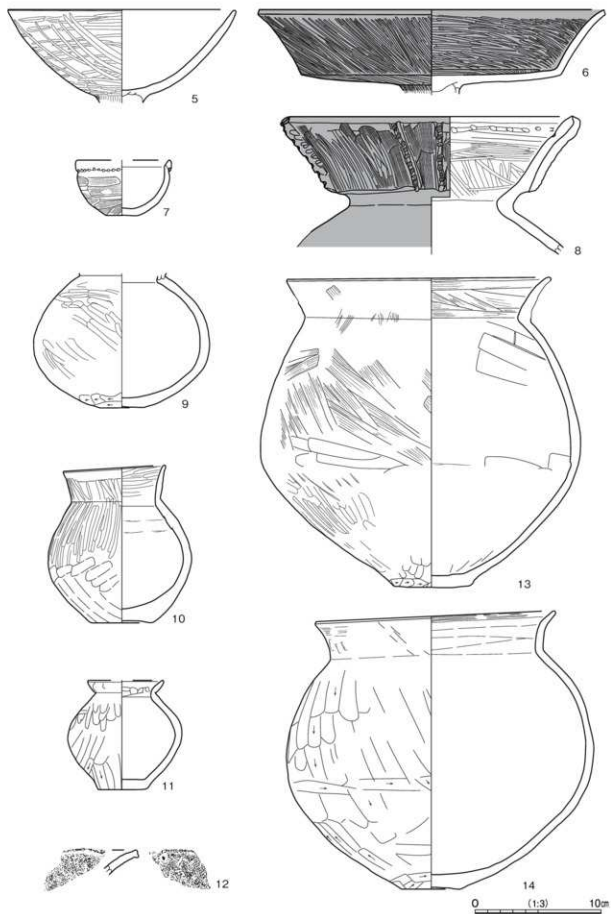




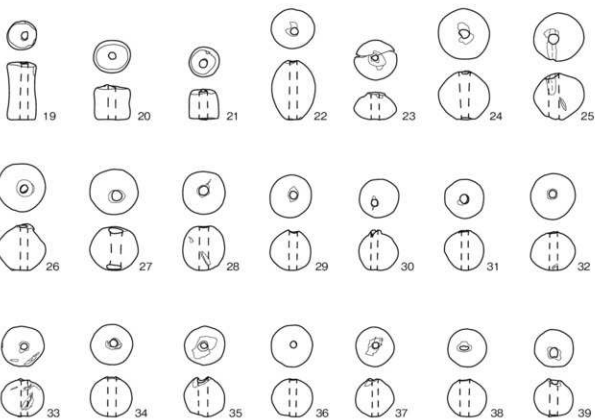
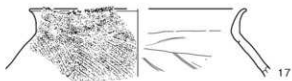
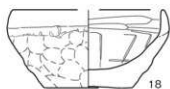
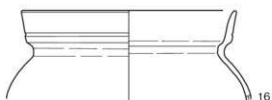
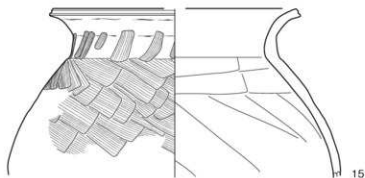
第 14 图 第 2 号竖穴建物跡実測图



第15图 第2号竖穴建物跡・出土遺物実測図

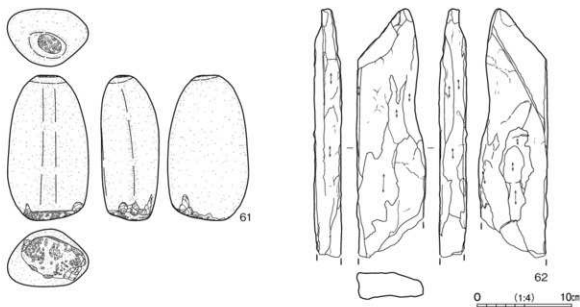
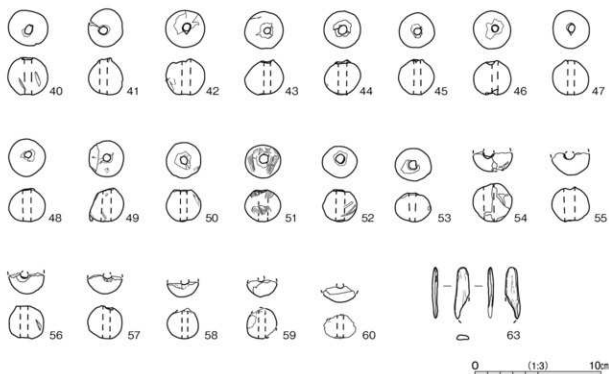


第16图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



0 (1:3) 10cm

第17图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第18図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第8表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧(第15～18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	7.0	7.4	9.2	長石・石英・ 炭粉・赤色粒子	にぶい橙	普通	3孔式 脚部外面磨き 内面ハケ目状のナデ	覆土下層	100% PL 8
2	土師器	器台	9.4	(3.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部ナデ 坏部外面ハケ目後ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土	20%
3	土師器	器台	-	(3.1)	[10.0]	長石・石英	橙	普通	脚部内外面ヘラナデ	覆土	20%
4	土師器	高坏	[11.8]	6.3	[5.4]	長石・石英	明褐	普通	口縁部ナデ 坏部外面ヘラナデ	覆土下層	30%
5	土師器	高坏	18.0	(7.4)	-	長石・石英	橙	普通	坏部外面粗い磨き 脚部との接点にハケ目残存	覆土下層	30% PL 8
6	土師器	高坏	27.3	(6.8)	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐 橙	普通	北陸系高坏 坏部輪密な磨き 脚部との接合 部凸状 内外面赤彩 外面二次焼成により赤 彩薄化 採付者	覆土下層	60% PL 9

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
7	土師器	鉢	[7A]	4.4	2.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面輪状土粒下端連続刺突文 体部外面ハケ目 内面ナデ	野崎穴 覆土上層	50% PL. 8
8	土師器	壺	224	(110)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	二重口縁部 口縁部外面ハケ目後縁状波文附付内周連続刺突文 外外面磨き 外面赤彩	覆土下層	30% PL. 9
9	土師器	壺	-	(107)	3.6	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部外面ヘラナデ 下端ヘラ削り	床面	90% PL. 9
10	土師器	壺	80	12.5	5.0	長石・石英・赤色粒子・貝状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面ナデ 体部外面上半磨き 下平ヘラナデ 口縁部内面磨き 体部内面輪状刺突文部ヘラナデ	床面	95% PL. 9
11	土師器	壺	[60]	8.7	3.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部指節痕 体部外面ヘラナデ ヘラ削り	覆土下層	70% PL. 9
12	土師器	壺	-	(20)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	二重口縁部。口縁部内面輪状工具による波状文	覆土	5%
13	土師器	壺	208	24.6	6.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部ハケ目後ナデ 体部外面ハケ目 ヘラナデ 下端ヘラ削り 体部内面ヘラナデ 底部ヘラ削り 外面全体磨き	覆土下層	60% PL. 9
14	土師器	壺	189	22.1	4.5	長石・石英・赤色粒子・貝状物質	にぶい橙 黒褐	普通	口縁部ヘラナデ後ナデ 体部外面ヘラナデヘラ削り	床面 覆土下層	80% PL. 9
15	土師器	甕	[192]	(13.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部、肩部外面ハケ目後ナデ 体部外面ハケ目 内面ヘラナデ	床面	10%
16	土師器	甕	17.0	(7.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	北陸系有段口縁突 口縁部ナデ 口縁部下端凸帯	覆土下層	10% PL. 9
17	土師器	甕	[178]	(5.4)	-	長石・石英	明褐	普通	口縁部ナデ 体部外面ハケ目 内面ヘラナデ	床面	5%
18	土師器	手捏土器	[118]	6.2	[70]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ナデ 体部外面指節痕 口縁部、体部内面ヘラナデ 底部本葉痕 内面黒色	覆土上層	50% PL. 9

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
19	管状土師	23	4.6	0.7	27.95	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
20	管状土師	2.9	2.7	0.5	26.05	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
21	管状土師	2.4	2.3	0.7	15.17	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土上層	PL.10
22	管状土師	3.5	4.7	0.6	46.68	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
23	球状土師	3.4	2.1	0.6	(1924)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
24	球状土師	4.1	3.9	0.8	60.22	長石・石英	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土上層	PL.10
25	球状土師	4.0	3.7	0.8	50.71	長石・石英	にぶい赤褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
26	球状土師	3.9	3.7	0.8	48.03	長石・石英	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
27	球状土師	3.9	3.5	1.1	44.19	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土上層	PL.10
28	球状土師	3.4	3.5	0.7	42.09	長石・石英	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
29	球状土師	3.4	3.2	0.6	32.04	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
30	球状土師	3.2	3.2	0.7	26.84	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
31	球状土師	3.1	3.2	0.8	27.08	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
32	球状土師	3.7	3.1	0.7	36.66	長石・石英	にぶい黄褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
33	球状土師	3.4	3.1	0.5	29.92	長石・石英	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土上層	PL.10
34	球状土師	3.4	3.1	0.7	32.75	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
35	球状土師	3.2	3.1	0.8	29.36	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
36	球状土師	3.2	3.0	0.5	31.48	長石・石英	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
37	球状土師	3.2	3.0	0.5	23.44	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土上層	PL.10
38	球状土師	3.1	3.0	0.7	28.41	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
39	球状土師	3.1	3.0	0.8	25.02	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
40	球状土師	3.1	3.0	0.8	25.52	長石・石英・赤色粒子・貝状物質	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
41	球状土師	3.0	2.9	0.6	19.35	長石・石英・赤色粒子	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
42	球状土師	3.1	2.8	0.8	22.68	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
43	球状土師	3.1	2.8	0.6	22.48	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
44	球状土師	2.9	2.8	0.6	19.30	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
45	球状土師	2.9	2.8	0.6	19.49	長石・石英	にぶい黄褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
46	球状土師	3.0	2.7	0.5	21.43	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
47	球状土師	3.0	2.7	0.9	20.72	長石・石英・赤色粒子	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL.10
48	球状土師	3.0	2.7	0.8	19.75	長石・石英	にぶい褐	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	PL.10
49	球状土師	2.8	2.7	0.8	18.05	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部削り	覆土下層	PL.10

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
50	球状土締	2.8	2.5	0.5	17.60	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	PL10
51	球状土締	2.9	2.5	0.7	17.24	長石・石英	明黄緑	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 ハテ状工具痕	覆土下層	PL10
52	球状土締	2.8	2.5	0.8	14.68	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	貯蔵穴 覆土上層	PL10
53	球状土締	2.9	2.3	0.6	15.13	長石・石英・赤色 粒子・片状物質	にぶい橙	一方向からの穿孔	覆土	
54	球状土締	[3.1]	3.0	[0.8]	[11.27]	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	覆土下層	PL10
55	球状土締	[3.0]	2.8	[0.8]	[10.66]	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	覆土上層	PL10
56	球状土締	[2.8]	2.6	[0.6]	[10.14]	長石・石英・赤色 粒子・片状物質	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	覆土下層	PL10
57	球状土締	[2.8]	2.6	[0.6]	[8.94]	長石・石英	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	覆土	PL10
58	球状土締	[2.5]	2.4	[0.5]	[5.06]	長石・石英・ 赤色粒子	灰黄緑	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	覆土	PL10
59	球状土締	[2.4]	[2.4]	[0.5]	[5.49]	長石・石英・ 赤色粒子	灰黄緑	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	覆土	PL10
60	球状土締	[2.5]	[1.9]	[0.5]	[5.30]	長石・石英	にぶい橙	一方向からの穿孔 外面ナデ調整 一部欠損	覆土	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
61	磁石	15.4	8.5	6.1	1157.8	砂岩	両端部敲打痕	床面	PL10
62	磁石	[26.3]	7.3	2.8	[810.6]	粘板岩	底面4面 表面平常な研磨痕 裏面溝状の研磨痕 右側面凸 玉砥石	床面	PL10
63	不明石製品	(4.1)	(1.05)	0.45	(2.82)	片麻岩	全面研磨痕・光沢	覆土	PL10

### 第3号竪穴建物跡（第19～21図 第9表 PL2・3・10）

**位置** 調査区東部のD11h6区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第40号土坑、第4号墳の周溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 掘乱のため、確認できた規模は長軸8.40m、短軸7.50mである。平面形は長方形と推定され、主軸方向はN-4°-Eである。壁の高さは最大45cmで直立している。

**床** 確認できた範囲は平坦で、中央部西寄り硬化している。貼床はロームブロックを多く含む第11層を埋土して構築している。南西コーナー部の床面が東西12cm、南北15cmの範囲で焼けている。

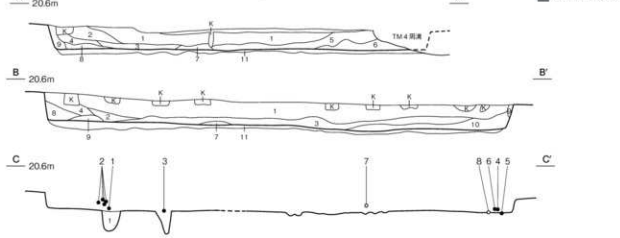
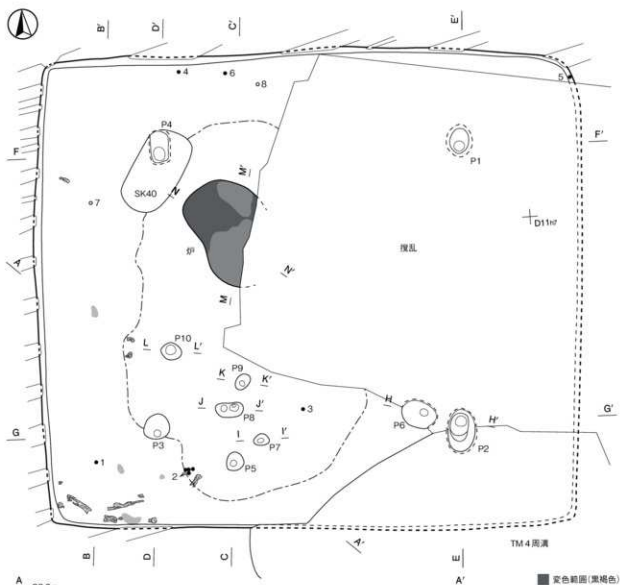
**炉** 中央部北西寄りに位置している。掘乱のため、確認できた規模は長径175cm、短径118cmで、平面形は不整楕円形と推定される。炉床面は最大6cmの凹凸があり、全体的に焼けて黒褐色に変色して硬化している。また、北側の長径70cm、短径35cmの範囲と、南側の長径106cm、短径62cmの範囲は赤変している。

**ピット** 10か所。P1～P4は、深さ98～133cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ34cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P10は、深さ19～56cmで、性格は不明である。

**覆土** 10層に分層できる。第1～3層は周溝からの流入を示す堆積状況から、自然堆積で、第4層以下は不規則な堆積状況から、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土器器片135点（坏1、蓋1、器台4、高坏13、壺35、甕80、台付ミニチュア1）、土製品2点（球状土締）が出土している。ほかに混入した須恵器片2点、石器2点、礫2点が出土している。1は南西部の床面から逆位の状態で、4は北壁際の覆土下層から斜位の状態出土している。また、南と西壁際の床面から、炭化材と焼土塊が出土している。焼土塊の厚みは、最大10cmである。

**所見** 時期は、出土土器から前期前葉と考えられる。南西コーナー部の床面が焼けていることや、壁際の床面から炭化材が出土していることから、廃絶時に建物の部材を焼却した可能性がある。

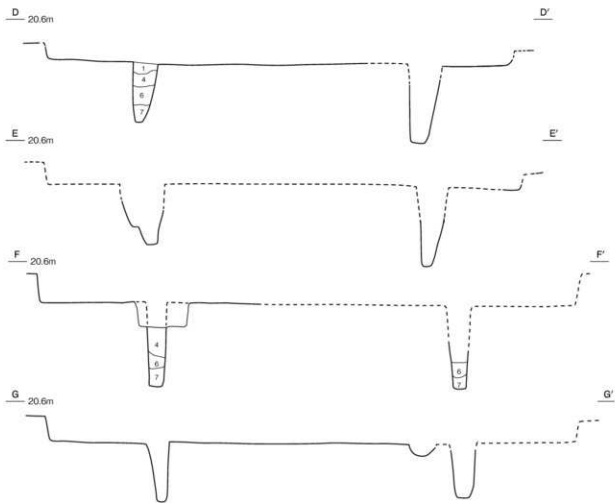


**土層解説**

1	10YR2/2	黒層	ローム小D・粒D'・焼土粒D/粘B、雜B	7	10YR4/3	シロ層	ローム中C・小B・粒A、焼土中C・小B・粒B、炭化粒C/粘B、雜B
2	10YR3/3	暗褐色	ローム小D・粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B	8	10YR2/2	黒層	ローム粒C、焼土粒D、炭化粒A/粘B、雜B
3	10YR4/2	灰褐色	ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D'/粘B、雜B	9	10YR4/3	シロ層	ローム小B・粒A、焼土小C・粒C、炭化粒C/粘B、雜B
4	10YR4/3	シロ層	ローム小D・粒C、焼土中D・小D・粒D、炭化粒D/粘B、雜B	10	10YR3/4	暗褐色	ローム小B・粒B、焼土粒C、炭化物D/粒C/粘B、雜B
5	10YR3/4	暗褐色	ローム粒C、焼土中D・小D・粒C、炭化粒D/粘B、雜B	11	10YR4/6	黒	ローム大C・中B・小B・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
6	10YR3/4	暗褐色	ローム中C・小C・粒B、焼土中C・小B・粒B、炭化粒D/粘B、雜B				

第19図 第3号竪穴建物跡実測図(1)

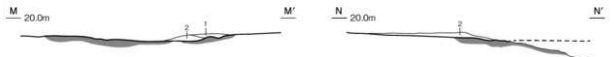




ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土粒C、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒A、焼土粒D/粘B、雜B
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム粒C、炭化粒D/粘B、雜B
- 5 10YR3/4 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B
- 6 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D/粘B、雜B
- 7 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒D、焼土粒D/粘B、雜B
- 8 10YR3/4 暗褐色 ローム粒B、焼土粒D/粘B、雜B
- 9 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B

0 (1:50) 2m

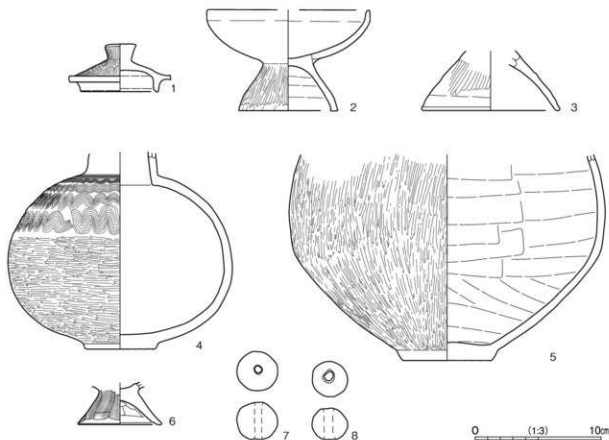


学土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土小D・粒C、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム小D・粒C、焼土小D・粒C、炭化粒A/粘B、雜B

0 (1:30) 1m

第20図 第3号堅穴建物跡実測図(2)



第21図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図

第9表 第3号竪穴建物跡出土遺物一覧(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	蓋	6.0	3.8	-	長石・石英	橙	普通	胴み部上面を除いて外面磨き 内面ナデ	床面	90% PL10
2	土師器	高坏 [128]	8.0	[7.8]		長石・石英 にぶい焼	普通	普通	坏部外面摩滅 脚部外面磨き 内面ナデ	覆土下層	40% PL10
3	土師器	高坏 -	(4.7)	[10.8]		長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子 にぶい焼	普通	普通	坏部外面磨き 内面ナデ	床面	20%
4	土師器	壺 -	(15.6)	5.7		長石・石英 にぶい焼	普通	普通	体部外面上半部系の磨滅状工具による直線文・ 波状文 外面下半部磨き 内面摩滅	覆土下層	90% PL10
5	土師器	壺 -	(16.3)	7.0		長石・石英	明黄褐	普通	体部外面磨き 内面ヘラナデ	床面	40%
6	土師器	台付ハケ	-	(3.4)	6.6	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	脚部外面ハケ目 内面ヘラナデ	覆土下層	10% PL10

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	球状土師	3.2	2.9	0.7	29.06	長石・石英 にぶい黄橙		一方向からの穿孔 外面ナデ調整	覆土下層	
8	球状土師	2.8	2.8	0.9	18.27	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい・焼	一方向からの穿孔 外面ナデ調整	床面	

第4号竪穴建物跡(第22図 第10表 P L 3)

位置 調査区東部のD12g4区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第39・49号土坑を掘り込み、第34・37号土坑に掘り込まれている。本跡上に第5号墳が築造されている。

規模と形状 規模は長軸4.76m、短軸4.62mで、平面形は隅丸方形である。主軸方向はN-2°-Wで、壁の高さは最大32cmで、直立している。

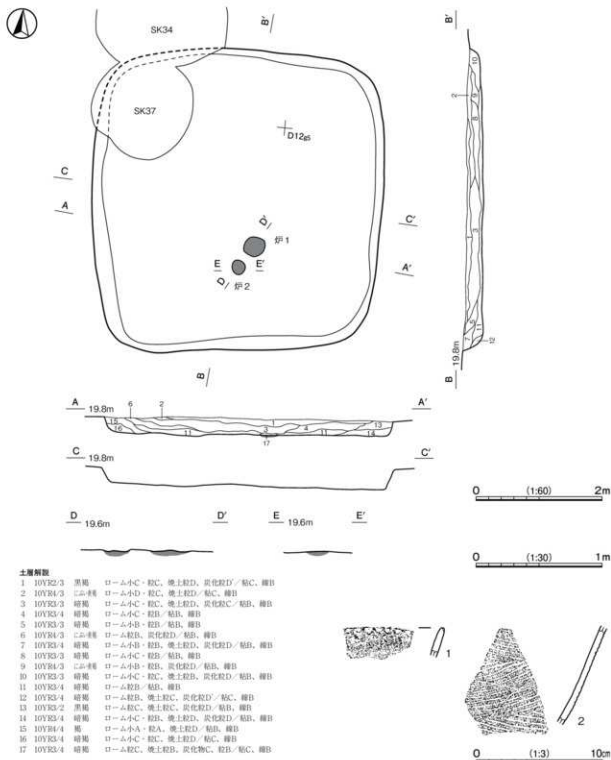
床 平坦で、硬化はしていない。

炉 2か所。いずれも中央部南寄りに位置している。炉1は径36cm、炉2は径21cmの円形で、床面と同じ高さの地床炉である。炉床面は凹凸があり、赤変硬化している。

覆土 17層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 弥生土器片12点(広口壺)、土師器片22点(壺6、甕16)が出土している。ほかに混入した石器2点、礫1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前葉と考えられる。



第22図 第4号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第10表 第4号竪穴建物跡出土遺物一覧(第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	壺	-	(24)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部削み	覆土	5%
2	弥生土器	広口壺	-	(7.8)	-	長石・石英	橙	普通	脛部外面附加糸輪襷不明付加1条	覆土	5%

第11表 古墳時代の竪穴建物跡一覧

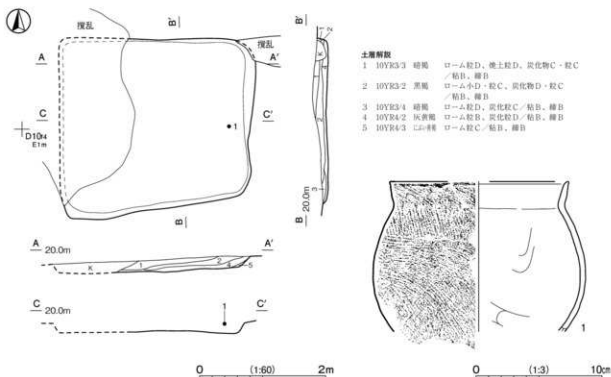
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	高さ (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								土柱穴	出入口	ヒコ	伊	若成穴				
1	D10e	N-10°-W	隅丸矩形	9.83 × 9.73	36~44	平坦	[全埋]	3	1	8	-	1	人骨	赤牛土器・土師器 土製品・石器	前期古墳	TP 1→本跡
2	D11k3	N-13°-E	隅丸矩形	5.82 × 4.85	34~45	平坦	-	3	1	9	伊1	1	白土 人骨	土師器・土製品 石器	前期古墳	
3	D116	N-4°-E	[長方形]	8.00 × 7.50	22~45	平坦	-	4	1	5	伊1	-	人骨	土師器・土製品	前期古墳	本跡→SK60, TM 4
4	D12g1	N-2°-W	隅丸矩形	4.76 × 4.62	18~32	平坦	-	-	-	-	伊2	-	人骨	弥生土器・土師器	前期古墳	SK29・e→本跡 →SK31・g, TM 5

(2) 竪穴遺構

第1号竪穴遺構(第23図 第12表 P L 3・11)

位置 調査区中央部のD10e4区、標高20mほどの台地上に位置している。

規模と形状 西部が攪乱のため、確認できた規模は長軸3.13m、短軸2.77mである。平面形は不整隅丸長方形と推定でき、主軸方向はN-90°である。壁は高さ18cmで、外傾している。



第23図 第1号竪穴遺構・出土遺物実測図

第12表 第1号竪穴遺構出土遺物一覧(第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	壺	[140]	[11.9]	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面斜位明き 内面ナデ 脛部外面上部縞 内面ヘラナデ	覆土上層	20% PL11

床 ほぼ平坦で、硬化はしていない。

覆土 5層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片29点(甕)が出土している。ほかに混入した縄文土器片2点、弥生土器片1点が出土している。1は東壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前葉と考えられる。性格は、簡易的な倉庫と考えられる。

### (3) 土 坑

出土遺物と重複関係、覆土の様相から古墳時代と考えられる12基のうち3基について記載し、そのほかは実測図(第29・30図)と一覧表(第15表)で掲載する。

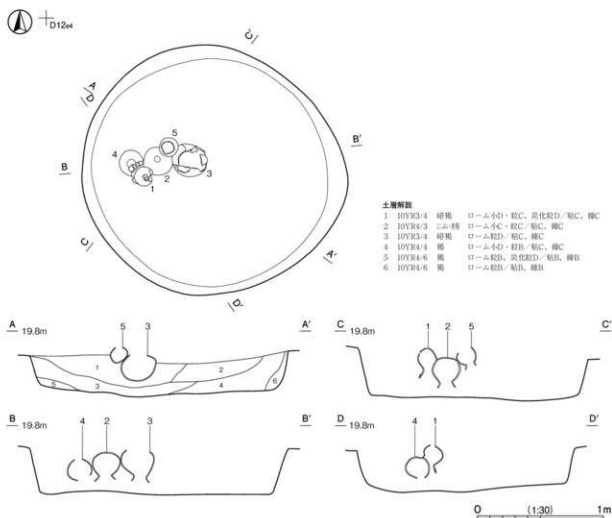
#### 第30号土坑(第24～26図 第13表 P.L.3・11)

位置 調査区北東部のD12e4区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 本跡上に第5号墳が構築されている。

規模と形状 長軸2.12m、短軸1.96mの円形である。深さは37cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾している。

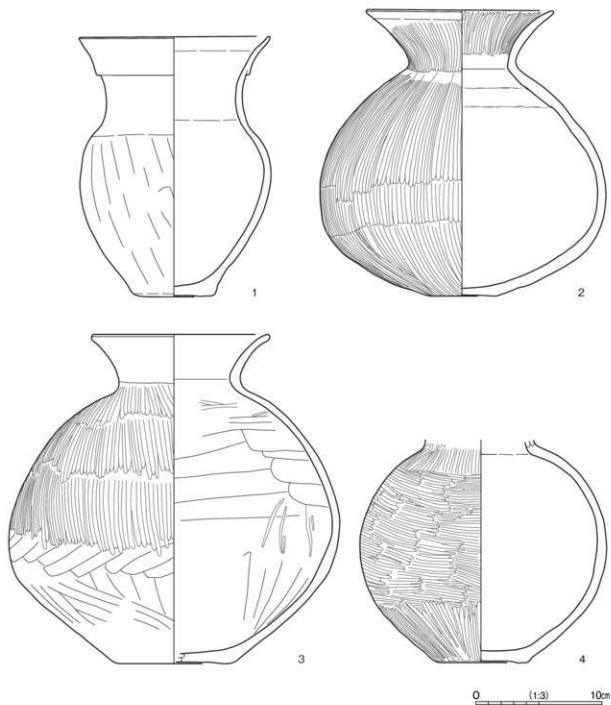
覆土 6層に分層できる。壁際の第5・6層を除き、覆土の締まりが弱いことから、人為堆積である。



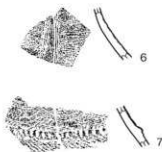
第24図 第30号土坑実測図

**遺物出土状況** 弥生土器片 8 点 (広口壺)、土師器片 15 点 (壺) が出土している。1～5 は中央部西寄りから逆位でまとめて出土している。第 3・4 層を埋め戻した段階で 2～4 を並べ置き、第 1・2 層を埋め戻しながら 2・4 の上に 1 を、2・3 の上に 5 を重ね置いている。土器内部の土壌から遺物は検出されなかった。

**所見** 時期は、出土土器から前期前葉と考えられる。



第 25 図 第 30 号土坑出土遺物実測図 (1)



0 (1:3) 10cm

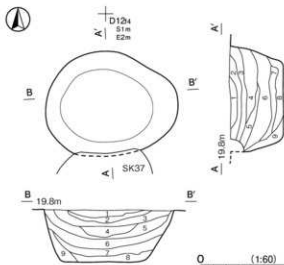
第26図 第30号土坑出土遺物実測図(2)

第13表 第30号土坑出土遺物一覧(第25・26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	壺	15.0	20.6	6.2	長石・石英	明褐色	普通	複合口縁 外面ヘラナゲ	弥生土器の無文化	覆土中層 90% PL11
2	土師器	壺	14.7	22.8	5.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面磨き 口縁部内面磨き	内面摩滅	覆土下層 100% PL11
3	土師器	壺	13.8	26.1	[90]	長石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	体部外面上半磨き	体部外面下半・内面ヘラナゲ	覆土下層 90% PL11
4	土師器	壺	-	(17.7)	7.1	長石・石英・赤母	橙	普通	外面磨き	内面摩滅	覆土下層 90% PL11
5	土師器	壺	9.7	17.3	4.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨き	内面ヘラナゲ	覆土上層 90% PL11
6	弥生土器	広口壺	-	(4.1)	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	3本の櫛歯状工具による区画		覆土 5% PL11
7	弥生土器	広口壺	-	(3.3)	-	長石・石英・赤母	赤褐色	普通	8本の櫛歯状工具による連続文 貼付際帯に縄文系体による剥突	附加条軸縄不明付加1条	覆土 5%

第34号土坑(第27図 P L 3)

位置 調査区東部のD124区、標高20mほどの台地上に位置している。



土層解説

- 1 10YR4/4 褐色 ローム粒A、炭化物D/粘B、礫B
- 2 10YR3/2 暗褐色 ローム粒D、粘C、礫C
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D、塊土粒D、炭化物D/粘B、礫B
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒C、塊土粒D、炭化物C/粘B、礫B
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C、炭化物D/粘B、礫B
- 6 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粘C、炭化物D/粘B、礫B
- 7 10YR4/3 褐色 ローム小D・粘C、炭化物C/粘B、礫B
- 8 10YR4/4 褐色 ローム小B・粘C/粘B、礫B
- 9 10YR4/6 褐色 ローム粒A、炭化物D/粘B、礫B

第27図 第34号土坑実測図

**重複関係** 第4号竪穴建物跡を掘り込み、第37号土坑に掘り込まれている。本跡上に第5号墳が築造されている。

**規模と形状** 南部が重複のため、確認できた規模は長軸2.10m、短軸1.62mである。平面形は楕円形と推定され、長径方向はN-86°-Eである。深さは83cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 9層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**遺物出土状況** 弥生土器片1点(壺)が出土している。

**所見** 本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は、重複関係から古墳時代前期と考えられる。

### 第37号土坑(第28図 第14表 P.L.3・11)

**位置** 調査区東部のD124区、標高20mほどの台地上に位置している。

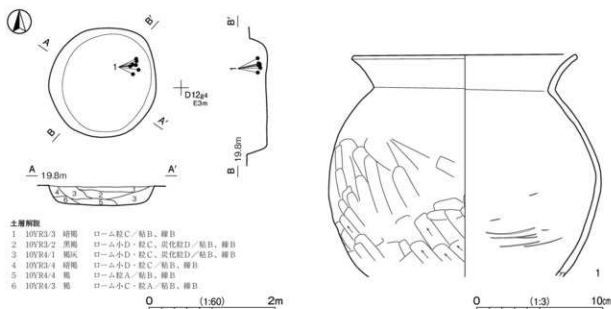
**重複関係** 第4号竪穴建物跡、第34号土坑を掘り込み、本跡上に第5号墳が築造されている。

**規模と形状** 長径1.84m、短径1.68mの円形である。深さは30cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片73点(甕)が出土している。1は北東部の覆土中層から散在した状態で出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。

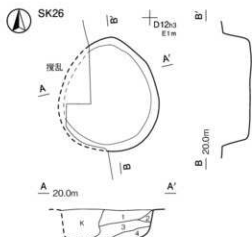


第28図 第37号土坑・出土遺物実測図

第14表 第37号土坑出土遺物一覧(第28図)

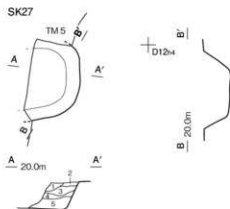
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	176	(176)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部壊ナデ 体部外面斜位ヘラナデ 下半ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	20% PL.11





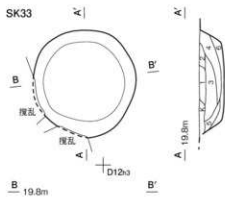
第26号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 コーム粒C、炭化粒D / 粘土、雜土
- 2 10YR4/3 褐色 コーム粒B / 粘土、雜土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 コーム小D・粒C / 粘土、雜土
- 4 10YR3/4 暗褐色 コーム粒C / 粘土、雜土



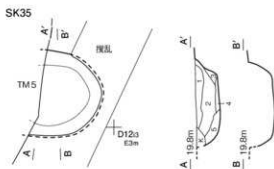
第27号土坑土層解説

- 1 コーム小D・粒C / 粘土、雜土
- 2 10YR3/3 暗褐色 コーム小C・粒C / 粘土、雜土
- 3 10YR3/2 黒褐色 コーム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘土、雜土
- 4 10YR3/4 暗褐色 コーム小C・粒B / 粘土、雜土
- 5 10YR3/3 暗褐色 コーム小D・粒D / 粘土、雜土



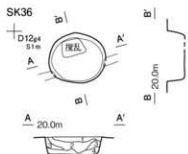
第33号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐色 コーム粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘土、雜土
- 2 10YR3/3 暗褐色 コーム小D・粒C、焼土粒D / 粘土、雜土
- 3 10YR2/3 黒褐色 コーム小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D、粘土、雜土
- 4 10YR3/3 暗褐色 コーム小C・粒B / 粘土、雜土
- 5 10YR3/4 暗褐色 コーム小C・粒B、炭化粒D / 粘土、雜土
- 6 10YR4/3 褐色 コーム小B・粒B / 粘土、雜土



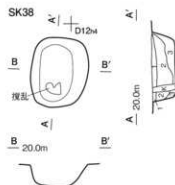
第35号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 コーム粒C / 粘土、雜土
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 コーム粒C / 粘土、雜土
- 3 10YR3/3 暗褐色 コーム粒C / 粘土、雜土
- 4 10YR3/3 C土層 コーム小D・粒B / 粘土、雜土
- 5 10YR4/3 褐色 コーム粒B / 粘土、雜土



第36号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 コーム小D・粒C / 粘土、雜土
- 2 10YR3/2 黒褐色 コーム小C・粒C / 粘土、雜土
- 3 10YR3/3 暗褐色 コーム小B・粒C / 粘土、雜土
- 4 10YR4/4 褐色 コーム小B・粒B / 粘土、雜土

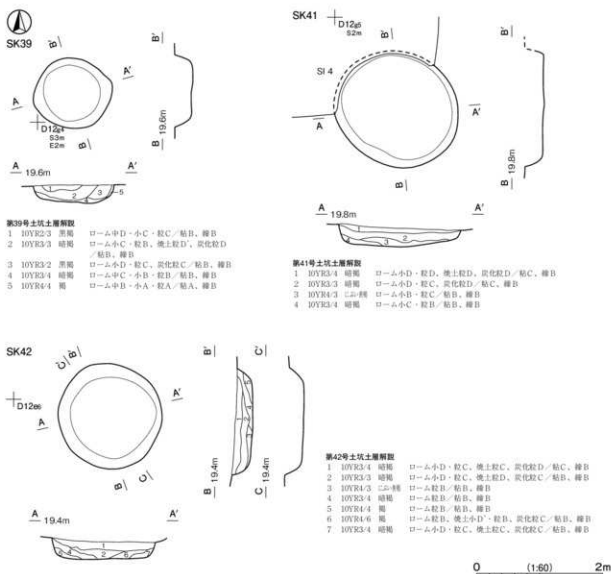


第38号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 コーム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘土、雜土
- 2 10YR3/1 黒褐色 コーム小D・粒C / 粘土、雜土
- 3 10YR3/3 暗褐色 コーム小C・粒C / 粘土、雜土

0 (1:60) 2m

第29図 古墳時代の土坑実測図 (1)



第30図 古墳時代の土坑実測図(2)

第15表 古墳時代の土坑一覧

番号	位置	長短方向	平面形	坑		断面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
26	D12h3	N-1°-E	[楕円形]	1.81 × 1.58	45	外傾	平坦	自然		前期	本跡→TM 5
27	D12h3	-	[円形・楕円形]	1.26 × 0.82	43	外傾	平坦	人為		前期	本跡→TM 5
30	D12e4	-	円形	2.12 × 1.96	37	外傾	平坦	人為	弥生土器 土師器	前期前期	本跡→TM 5
33	D12g2	-	円形	1.74 × 1.65	40	外傾	平坦	自然		前期	本跡→TM 5
34	D12f4	N-86°-E	[楕円形]	2.10 × 1.62	83	外傾	平坦	自然	弥生土器	前期	SI 4→本跡→SK37, TM 5
35	D12h3	-	[円形・楕円形]	1.38 × 1.00	40	外傾	平坦	人為		前期	本跡→TM 5
36	D12g4	N-84°-E	楕円形	0.90 × 0.80	29	外傾 垂直	平坦	人為		前期	本跡→TM 5
37	D12f4	-	円形	1.84 × 1.68	30	外傾	平坦	人為	土師器	前期	SI 4, SK34→本跡→TM 5
38	D12b4	N-5°-E	楕円形	1.10 × 0.92	37	外傾	平坦	自然		前期	本跡→TM 5
39	D12g4	-	円形	1.27 × 1.15	28	外傾	平坦	人為		前期	本跡→SI 4, TM 5
41	D12g5	N-36°-W	[楕円形]	[2.00] × 1.80	31	外傾	平坦	人為		前期	本跡→SI 4, TM 5
42	D12h6	-	円形	1.70 × 1.63	29	外傾	平坦	人為	弥生土器 土師器	前期	本跡→TM 5

#### (4) 古墳

##### 第4号墳(第31・32図 P.L.4)

**位置** 調査区南東部のD11i5～E12a1区、標高20mほどの台地縁部に位置している。

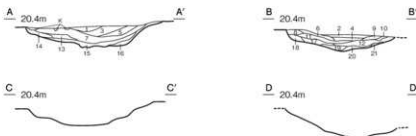
**重複関係** 第3号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 削平と擾乱のため墳丘は失われている。周溝は確認した範囲で弧状に巡っており、形状から全長約24mの円墳と推定される。周溝幅は、上幅が2.04～3.36m、下幅が0.92～1.64m、深さは30～76cmで、削平のため、北西部で急に狭くなり、途切れている。断面は浅いU字形で、壁は15～25°と緩やかに立ち上がっている。なお、昭和57年に旭村(現銚田市)教育委員会が調査区域外の埋葬施設の調査を行っており、粘板岩を切り積みで積み上げた横穴式石室が確認されている。

**周溝覆土** 21層に分层できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**遺物出土状況** 周溝から土師器片65点(高坏1、壺4、甕60)、須恵器片1点(瓶)が出土している。ほかに混入した縄文土器片1点、弥生土器片19点、古墳時代前期の土師器片5点、土製品1点、石器3点が出土している。土師器片と須恵器片は細片のため、図示できない。

**所見** 本墳は、周溝の出土遺物から時期を特定できないが、昭和57年の埋葬施設の調査で出土した遺物から、6世紀後半に築造されたものと考えられている。

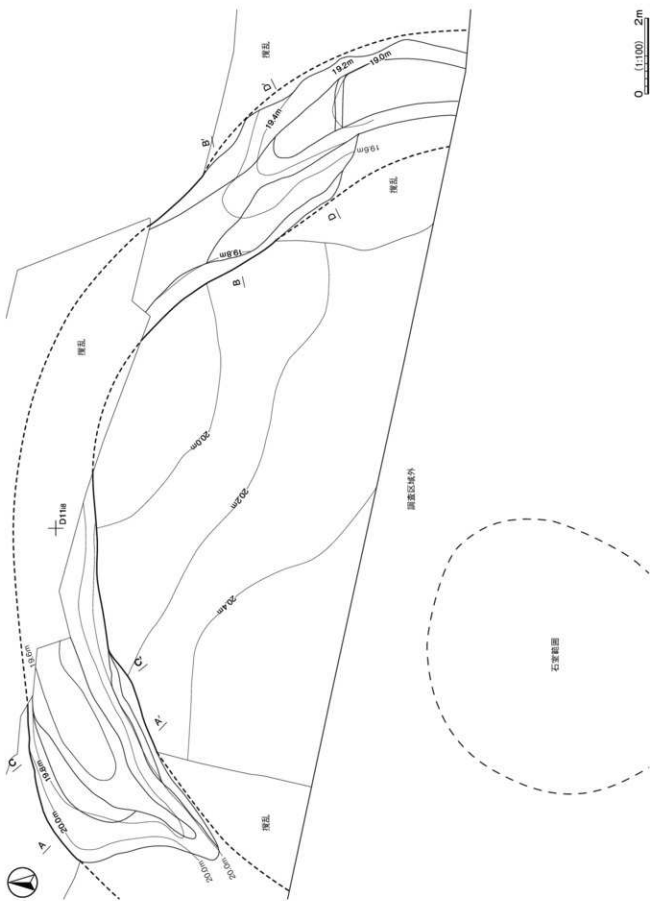


##### 土層解説

- |    |               |                          |    |               |                          |
|----|---------------|--------------------------|----|---------------|--------------------------|
| 1  | 10YR3/3 暗褐色   | ローム粒D/粘B、礫B              | 12 | 10YR3/3 暗褐色   | ローム小D・粒D、炭化粒D/粘B、礫B      |
| 2  | 10YR3/1 黒褐色   | ローム小D・粒D/粘B、礫B           | 13 | 10YR3/2 黒褐色   | ローム粒C/粘B、礫B              |
| 3  | 10YR3/1 黒褐色   | ローム粒C、炭化粒D/粘B、礫B         | 14 | 10YR3/4 暗褐色   | ローム小C・粒B/粘B、礫B           |
| 4  | 10YR4/3 二色黄褐色 | ローム小C・粒D、焼土粒D/粘B、礫B      | 15 | 10YR3/3 暗褐色   | ローム粒C/粘B、礫B              |
| 5  | 10YR2/2 黒褐色   | ローム粒C、炭化粒D/粘B、礫B         | 16 | 10YR3/4 暗褐色   | ローム粒B/粘B、礫B              |
| 6  | 10YR3/3 暗褐色   | ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B | 17 | 10YR4/3 二色黄褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D/粘B、礫B      |
| 7  | 10YR2/1 黒褐色   | ローム粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B    | 18 | 10YR3/4 暗褐色   | ローム小C・粒B、焼土粒D/粘B、礫B      |
| 8  | 10YR3/4 暗褐色   | ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B | 19 | 10YR3/4 暗褐色   | ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B |
| 9  | 10YR4/4 黄褐色   | ローム小B・粒B/粘B、礫B           | 20 | 10YR4/3 二色黄褐色 | ローム中B・小B・粒B/粘B、礫B        |
| 10 | 10YR3/4 暗褐色   | ローム粒B/粘B、礫B              | 21 | 10YR4/4 黄褐色   | ローム中B・小B/粘B、礫B           |
| 11 | 10YR3/4 暗褐色   | ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B |    |               |                          |

0 (1:100) 2m

第31図 第4号墳実測図(1)



第32图 第4号墳实测图 (2)

#### 第5号墳(第33～37図 第16・17表 P.L.4・5・12)

**位置** 調査区東端部のD12d1～D12d4区、標高20mほどの台地縁部に位置し、西を除いた三方が崖となっている。

**重複関係** 第2号石器集中地点、第4号竪穴建物跡、第26・30・33・34・36～39・41・42号土坑の上に築造されており、第27・35号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 墳丘は、西側半分を削平されている。確認できた周溝から、全長約22mの円墳と推定できる。主軸方向は埋葬施設の主軸方向からN-10°-Eである。確認できた墳丘高は基底面から高さ1.43mである。周溝は西側の北西部と南西部で部分的に確認できた。東側では緩やかな傾斜の裾部から崖になっており、明確な周溝は確認できなかった。周溝の底面の標高は約19.1mであるが、東側の周溝想定地点の地山の標高は19.1mである。墳丘土層断面のA-A'ラインの東端部において浅いくぼみが存在していることから、東側は周溝の掘り込みが浅く、流出や削平によって消失した可能性が高い。確認できた周溝幅は、上幅0.72～2.60m、下幅0.38～1.34m、深さは10～68cmで、北部が南部よりも若干幅広でやや深い。断面はU字形か逆台形で、壁は15～30°と緩やかに立ち上がっている。

**周溝覆土** 25層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**墳丘土層** 北東方向に緩やかに下がる黒色土(旧表土)上面を基底として盛土している。盛土は焼土や炭化物を若干含むロームブロックが主体で、粘性や締まりの強弱から63層に分層できる。東西方向の土層観察の結果、黒褐色土と暗褐色土主体に部分的に褐色土などで盛土している。南北方向の土層観察では、墳丘中央部付近の黒色土(旧表土)のわずかな窪みを埋めた後、南北2か所に盛土し、その間を埋めていく工程が看取される。

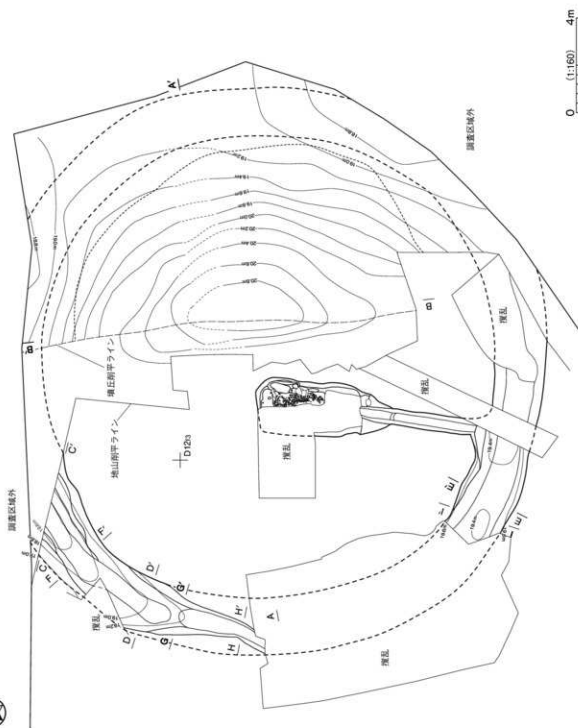
**埋葬施設** 地山を掘り込んだ半地下式の両袖型横穴式石室で、主軸方向はN-10°-Eである。羨道は、周溝と玄室を溝で結び、長さ4.95mである。その上幅は周溝側で0.70m、玄室側で0.50m、深さは約40cmである。周溝から約35mの玄門まではほぼ平坦で、玄門付近は羨道より約10cm下がっている。羨道の覆土は26層に分層でき、土質や堆積状況から自然堆積と考えられる。玄室の覆土は9層に分層できたが、北西部から南部にかけて攪乱を受けており、原位置を保つのは玄室内の礎床の一部とその東側壁の石材1か所のみである。玄室の底面は凹凸が認められるが、本来は平坦で玄門と同じ高さであったと推測される。玄室の掘方は、長軸4.3m、短軸2.2mほどで、隅丸長方形と推定される。原位置を保つ東側壁の石材は、長さ70cm、幅36cm、厚さ22cmの砂岩である。また、本墳の調査で出土した石材の多くは、同定の結果、ひたちなか市の平磯から磯崎付近にかけての海浜部に露頭がある白亜紀系的那珂湊層、殿山層の砂岩であることが判明した。また、礎床の礎は、見和層の中部礫層と推定された。

**遺物出土状況** 埋葬施設からは、土師器片35点(甕)、土製品1点(丸玉)、金属製品3点(耳環1、不明2)が出土している。ほかに混入した縄文土器片1点、弥生土器片18点、石器1点が出土している。周溝からは、土師器片68点(壺18、甕50)、須恵器片9点(瓶1、甕8)が出土し、ほかに混入した縄文土器片2点、弥生土器片26点、古墳時代前期の土師器片3点、石器1点、礫2点が出土している。また、表土中と盛土に混入した縄文土器片4点、弥生土器片86点、土師器片70点、須恵器片11点、土製品3点、石器2点、礫4点が出土している。埋葬施設と周溝から出土した土器片はほとんどが細片で、埋没時などに流入したものと推測される。1・2は玄室北東部の礎床から、それぞれ出土している。

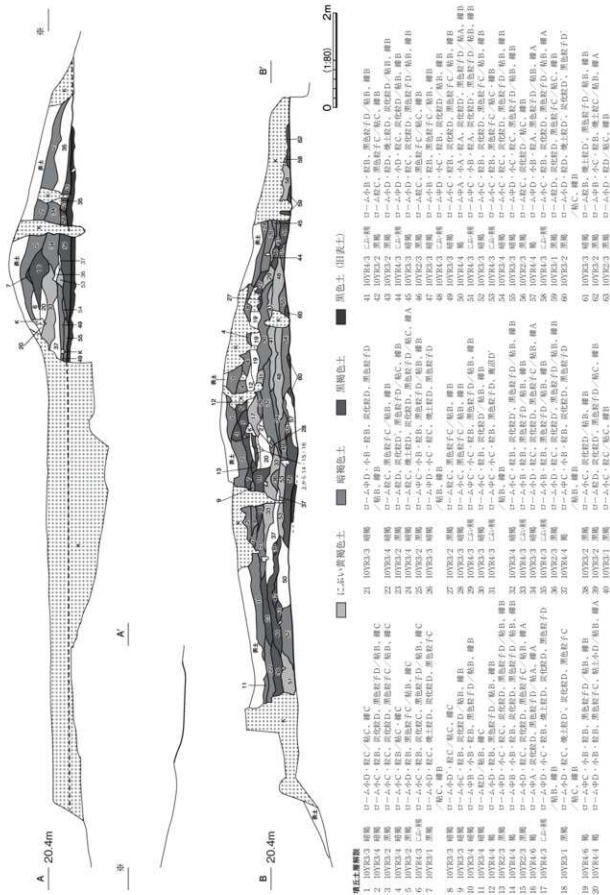
**所見** 本墳は出土遺物から時期を特定できないが、埋葬施設の形状や攪乱・表土から出土した須恵器から、6世紀末から7世紀初頭に築造されたものと推測される。

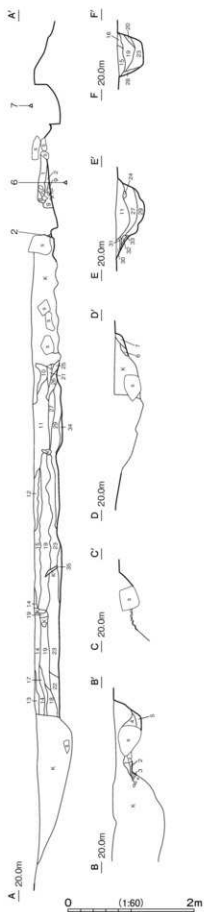
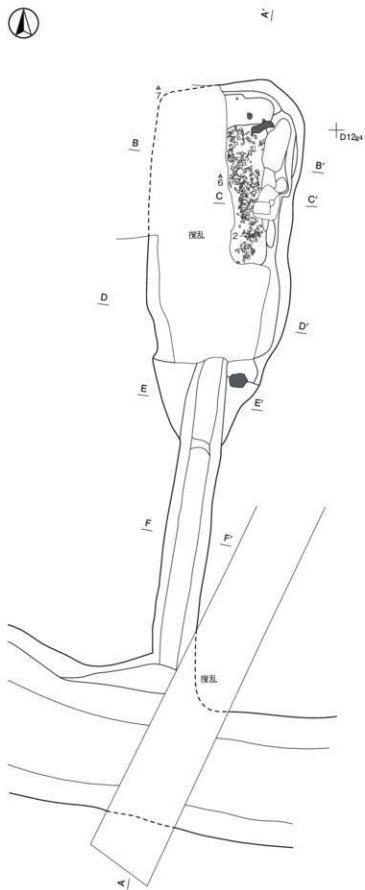


第 33 図 第 5 号墳実測図 (1)



第34图 第5号墳実測図(2)





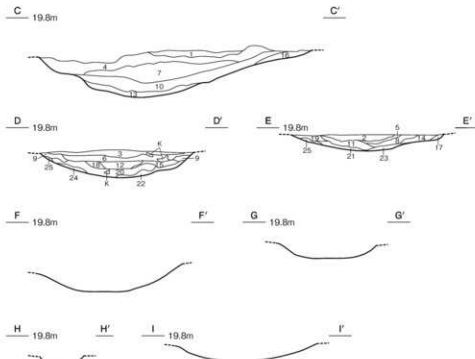
第35图 第5号墳実測图(3)



埋跡層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム中C・小C・粘土小D/粘C、雜B  
 2 10YR4/3 褐色 ローム小C・粒C・粘土小C/粘B、雜B  
 3 10YR3/4 暗褐色 粘土小D、碎粒C/粘C、雜C  
 4 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C、粘土中B/粘A、雜B  
 5 10YR2/2 黒褐色 粘土小C・粘B、雜B  
 6 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C/粘C、雜B  
 7 10YR4/6 褐色 黒色粒子C/粘C/粘B、雜B  
 8 10YR3/3 褐色 ローム粒C、粘土小B/粘B、雜B  
 9 10YR5/4 褐色 ローム小D・粒C、粘土小C/粘B、雜B  
 10 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、粘土小D/粘B、雜A  
 11 10YR2/2 黒褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘C、雜B  
 12 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C/粘B、雜B  
 13 10YR3/4 暗褐色 ローム粒D/粘B、雜B  
 14 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、塊土粒D、炭化粒D/粘C、雜B  
 15 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D/粘B、雜B  
 16 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒C、粘B、雜B  
 17 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B  
 18 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、塊土粒D、炭化粒D/粘B、雜B

- 19 10YR2/3 黒褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘C、雜B  
 20 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜B  
 21 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘C、雜B  
 22 10YR4/3 褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B  
 23 10YR3/2 黒褐色 ローム粒D、粘C、雜A  
 24 10YR4/3 暗褐色 ローム小D・粒C/粘B、雜B  
 25 10YR4/4 暗褐色 ローム中D・小C・粒C/粘B、雜A  
 26 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C・粒C、炭化粒D、黒色ブロッケD/粘B、雜A  
 27 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、粘土小D/粘B、雜A  
 28 10YR4/6 褐色 ローム中A・小B・粒B/粘A、雜B  
 29 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C・粒B、粘土小C/粘B、雜A  
 30 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、粘土小C・粘B、雜A  
 31 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒D/粘C、雜B  
 32 10YR4/3 褐色 ローム小D・粒D、粘土小B/粘B、雜A  
 33 10YR4/4 褐色 ローム中D・小C・粒B/粘B、雜A  
 34 10YR4/4 褐色 ローム中B・小A・粒A/粘B、雜B  
 35 10YR4/3 褐色 ローム中B・小A・粒A/粘B、雜B



埋跡層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜A  
 2 10YR2/2 黒褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘C、雜B  
 3 10YR3/1 黒褐色 ローム小D・粒D、炭化粒D/粘C、雜B  
 4 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C、粘B、雜A  
 5 10YR3/2 暗褐色 ローム小D・粒C、塊土粒D、炭化粒D/粘C、雜B  
 6 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒C/粘B、雜B  
 7 10YR4/6 褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜A  
 8 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B  
 9 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B  
 10 10YR3/2 黒褐色 ローム小D・小C・粒C/粘B、雜B  
 11 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C/粘B、雜B  
 12 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒D/粘C、雜B  
 13 10YR4/6 褐色 ローム小A・粒A/粘B、雜A

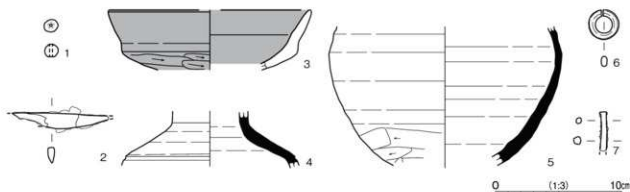
- 14 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B  
 15 10YR4/3 褐色 ローム中C・小B/粘B、雜B  
 16 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C/粘C、雜B  
 17 10YR4/3 褐色 ローム中D・小B/粘B、雜B  
 18 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘C、雜B  
 19 10YR2/3 黒褐色 ローム小D・粒B/粘B、雜B  
 20 10YR4/3 褐色 ローム中D・小B・粒C/粘B、雜B  
 21 10YR4/6 褐色 ローム中A・小B・粒B/粘B、雜B  
 22 10YR4/6 褐色 ローム中B・小B・粒B/粘B、雜B  
 23 10YR4/4 褐色 ローム中B・小A・粒A/粘B、雜B  
 24 10YR4/3 褐色 ローム小B・粒A/粘B、雜B  
 25 10YR4/4 褐色 ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B

0 (1:60) 2m

第36図 第5号墳実測図(4)

第16表 第5号墳出土遺物一覧(第37図)

番号	種 類	径	高さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
1	瓦玉	1.1	1.0	0.2	101	長石・石英・雲母	暗褐色	一方内からの穿孔 外面光沢	支室内	PL12
番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴		出土位置	備 考
2	不明遺物品	(7.7)	1.5	0.6	(8.50)	鉄	断面三角形 両端欠損 刀子。		支室内	PL12



第37図 第5号墳出土遺物実測図

第17表 第5号墳関連遺物一覧 (第37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
3	土師器	坏	[15.8]	(4.7)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ヘラナデ 外部外面ヘラナデ 内外面赤鉄質	覆瓦	10%
4	須恵器	長瀬瓶	-	(4.3)	-	長石	暗灰黄	普通	肩部外面クロコナデ 肩部との接合部: 内部クロコナデ 肩部との接合部: 内部に赤鉄質残存	覆瓦	5% PL12
5	須恵器	瓶	-	(11.6)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	肩部外面クロコナデ 上部自然釉 下部ヘラナデ 内部内面クロコナデ	表土	10% PL12
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
6	耳環	2.4	2.4	0.8	13.89	銅	金銅製	断面楕円形	全面鍍金	覆瓦	PL12
7	不明鉄製品	(3.1)	0.7	0.6	(2.31)	鉄	断面方形	端部に方形の突起	片端欠損 釘	覆瓦	PL12

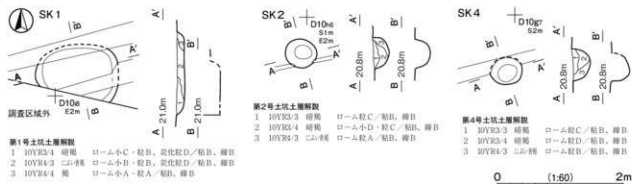
第18表 古墳一覧

番号	形状	位置	墳丘 主軸方向	規模				円溝		埋葬施設	主な出土遺物	時期	備考
				全長 (m)	高さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)	壁 断面				
4	[円墳]	D115 ~ E12a	-	[24.0]	-	2.04 ~ 3.36	1.64	30 ~ 76	外堀	(表) 十字形	土師器 須恵器	6世紀後半	SI 3 → 本跡
5	[円墳]	D1261 ~ D124	N - 10° - E	[22.0]	1.43	0.72 ~ 2.60	1.34	10 ~ 68	外堀	(表) 十字形	土師器 須恵器 土製品 金属製品	6世紀末 - 7世紀初頭	SS 2, SI 4, SK 26, 27, 30, 33 ~ 39, 41, 42 → 本跡

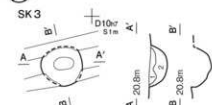
#### 4 時期不明の遺構と遺物

土坑29基、溝跡2条を確認した。以下、実測図と一覧表で記載する。

##### (1) 土坑 (第38 ~ 41図)

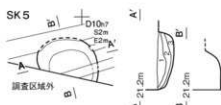


第38図 時期不明の土坑実測図 (1)



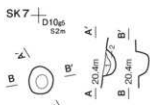
第3号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-4 暗褐色 ローム小B・粒A/粘B、雜B



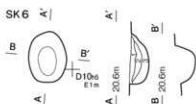
第5号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小D・粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-3 暗褐色 ローム粒C/粘B、雜B
- 3 10YR4-4 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B



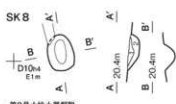
第7号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-3 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜B



第6号土坑土層解説

- 1 10YR4-3 暗褐色 ローム粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-4 暗褐色 ローム粒C/粘B、雜B
- 3 10YR4-6 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B



第8号土坑土層解説

- 1 10YR4-3 暗褐色 ローム粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-6 暗褐色 ローム粒C/粘B、雜B



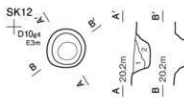
第9号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム中D・小C、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR3-2 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜B
- 3 10YR4-4 暗褐色 ローム粒A、炭化粒D/粘B、雜B



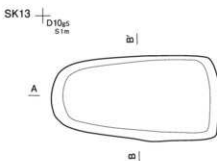
第10号土坑土層解説

- 1 10YR4-3 暗褐色 ローム粒C/粘B、雜B
- 2 10YR4-6 暗褐色 ローム粒A/粘B、雜B



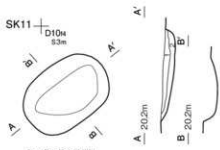
第12号土坑土層解説

- 1 10YR4-3 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-6 暗褐色 ローム中B・小B、炭化粒D/粘B、雜B



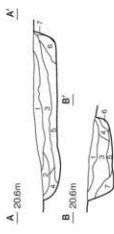
第13号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 暗褐色 ローム小C・粒D、炭化粒D/粘C、雜B
- 2 10YR3-2 暗褐色 ローム小B・粒B/粘C、雜B
- 3 10YR3-2 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘C、雜B
- 4 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小C/粘C、雜B
- 5 10YR3-4 暗褐色 ローム中D・小C/粘B、雜B
- 6 10YR3-4 暗褐色 ローム中C・小B、炭化粒D/粘B、雜B
- 7 10YR4-3 暗褐色 ローム中A・小B、炭化粒D/粘B、雜B



第11号土坑土層解説

- 1 10YR4-2 暗褐色 ローム粒C/粘B、雜B
- 2 10YR4-3 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B



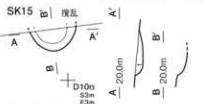
第17号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-4 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、雜B



第14号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒C/粘B、雜B
- 2 10YR4-4 暗褐色 ローム中B・小A、炭化粒D/粘B、雜B

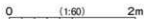


第15号土坑土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D/粘B、雜B

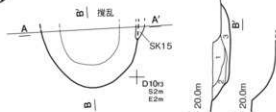
第17号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-4 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、雜B



第39図 時期不明の土坑実測図(2)

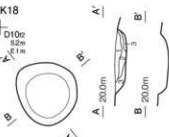
SK16



第16号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒C/粘B、礫B
- 2 10YR4/3 土赤褐色 ローム小D・粒B/粘B、礫B
- 3 10YR4/4 褐色 ローム粒B/粘B、礫B

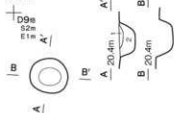
SK18



第18号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰青褐色 ローム粒C/粘B、礫B
- 2 10YR4/4 褐色 ローム粒C、焼土粒D/粘B、礫B
- 3 10YR4/6 褐色 ローム粒B/粘B、礫B

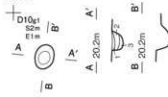
SK19



第19号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D/粘B、礫B
- 2 10YR4/4 褐色 ローム粒C/粘B、礫B

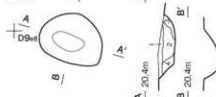
SK20



第20号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰青褐色 ローム粒C/粘B、礫B
- 2 10YR4/3 土赤褐色 ローム小D・粒B/粘B、礫B
- 3 10YR4/4 褐色 ローム粒B/粘B、礫B

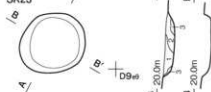
SK22



第22号土坑土層解説

- 1 10YR4/3 土赤褐色 ローム粒C/粘B、礫B
- 2 10YR4/4 褐色 ローム小D・粒C/粘B、礫B
- 3 10YR4/6 褐色 ローム粒C/粘B、礫B
- 4 10YR4/6 褐色 ローム粒B/粘B、礫B

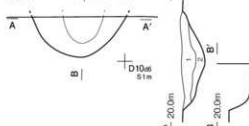
SK23



第23号土坑土層解説

- 1 10YR4/3 土赤褐色 ローム小D・粒C/粘B、礫B
- 2 10YR4/4 褐色 ローム粒C/粘B、礫B
- 3 10YR4/6 褐色 ローム粒C/粘B、礫B

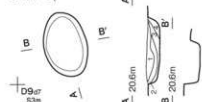
SK25



第25号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒D/粘B、礫B
- 2 10YR4/2 灰青褐色 ローム中D・粒C/粘B、礫B

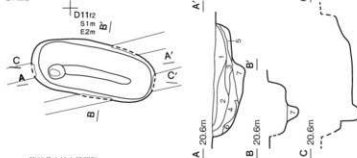
SK24



第24号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、炭化粒D/粘C、礫B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小B・粒C、炭化粒D/粘C、礫B
- 3 10YR4/3 土赤褐色 ローム小B・粒B、焼土小D・粒C、炭化粒D/粘B、礫B
- 4 10YR4/4 褐色 ローム中B・小C/粘B、礫B

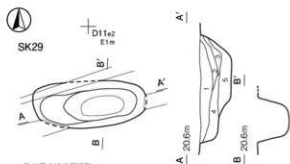
SK28



第28号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D、焼土粒D/粘B、礫B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム粒C、焼土粒D/粘B、礫B
- 3 10YR4/3 土赤褐色 ローム小D・粒B/粘B、礫B
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒C、焼土粒D/粘B、礫B
- 5 10YR4/2 灰青褐色 ローム粒C/粘B、礫B
- 6 10YR4/6 褐色 ローム粒B/粘B、礫B
- 7 10YR4/4 褐色 ローム小D・粒C/粘B、礫B

第40図 時期不明の土坑実測図(3)



第29号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 rome-紅D、焼土粒D/粘土、雜土
- 2 10YR3/4 暗褐色 rome-粒D/粘土、雜土
- 3 10YR4/2 灰褐色 rome-粒D/粘土、雜土
- 4 10YR3/2 暗褐色 rome-小D・粒C/粘土、雜土
- 5 10YR4/4 褐色 rome-小B・粒A/粘土、雜土



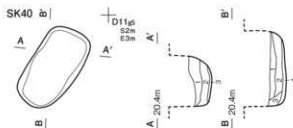
第32号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 rome-小B・粒B/粘土、雜土
- 2 10YR3/4 暗褐色 rome-中B・小B/粘土、雜土



第31号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 rome-小B・粒B、炭化粒C/粘土、雜土
- 2 10YR4/3 灰褐色 rome-小B・粒B/粘土、雜土



第40号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 rome-小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜土
- 2 10YR3/4 暗褐色 rome-小C・粒C、炭化粒D/粘土、雜土
- 3 10YR3/2 暗褐色 rome-粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜土
- 4 10YR4/4 褐色 rome-小B・粒A/粘土、雜土

0 (1:60) 2m

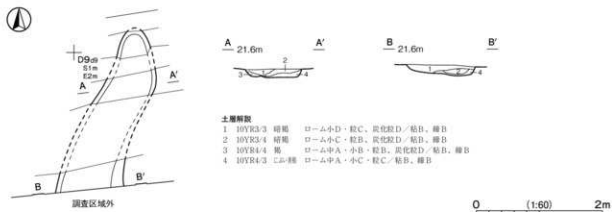
第41図 時期不明の土坑実測図(4)

第19表 時期不明の土坑一覧(第38~41図)

番号	位置	長径方向	平面形	規模		断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	D10e8	N-86°-E	[楕円形]	[1.31] × [0.83]	15	外傾	平坦	自然	弥生土層	
2	D10e6	-	円形	0.49 × 0.46	24	外傾	皿状	自然		
3	D10e6	-	円形	0.66 × [0.63]	30	外傾	皿状	人為		
4	D10e5	N-71°-E	楕円形	0.51 × [0.44]	30	外傾	皿状	自然		
5	D10e7	N-10°-W	[円形・楕円形]	0.91 × [0.61]	24	外傾	平坦	自然		
6	D10e5	N-4°-E	楕円形	0.81 × 0.60	30	外傾	皿状	自然		
7	D10e5	-	円形	0.43 × 0.40	18	外傾	平坦	自然		
8	D10e4	N-7°-W	楕円形	0.57 × 0.41	16	外傾	皿状	自然		
9	D10e5	-	円形	0.32 × 0.30	30	外傾	皿状	人為		
10	D10e5	N-45°-E	楕円形	0.69 × 0.50	22	外傾	皿状	自然		
11	D10e4	N-51°-E	楕円形	1.45 × 1.00	18	外傾	平坦	人為		
12	D10e4	-	円形	0.64 × 0.63	26	外傾	平坦	人為		
13	D10e5	N-87°-W	楕円形	2.67 × 1.33	41	外傾	平坦	人為	土師器	
14	D10e4	N-13°-W	楕円形	0.80 × 0.47	11	外傾	平坦	人為		
15	D10e3	N-8°-W	[円形・楕円形]	(0.72) × (0.34)	16	外傾	平坦	自然		SK16 → 本跡
16	D10e3	N-1°-W	[楕円形]	(1.54) × (0.90)	37	外傾	平坦	人為		本跡 → SK15
17	D10e2	N-11°-E	楕円形	0.55 × 0.46	21	外傾	平坦	人為		
18	D10e2	N-40°-W	楕円形	1.05 × 0.95	17	外傾	平坦	自然		
19	D 9 e8	N-76°-W	楕円形	0.61 × 0.55	25	外傾	平坦	人為		
20	D10e1	N-15°-E	楕円形	0.40 × 0.31	17	外傾	皿状	人為		
22	D 9 e8	N-69°-W	楕円形	1.05 × 0.78	25	外傾	平坦	人為		



第2号溝跡 (第43図)

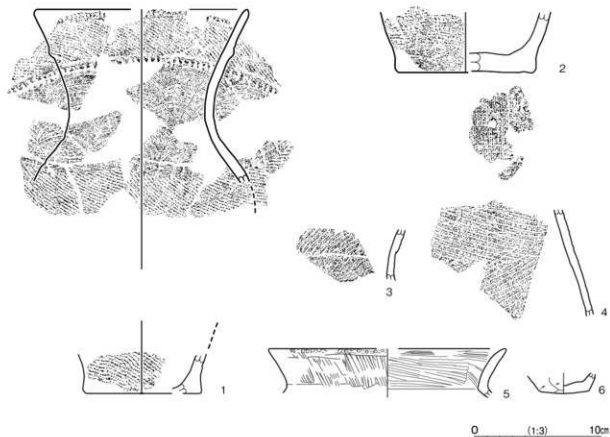


第43図 第2号溝跡実測図

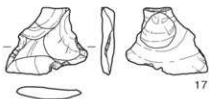
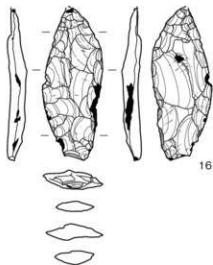
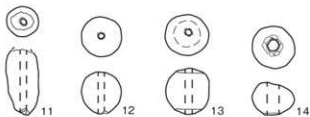
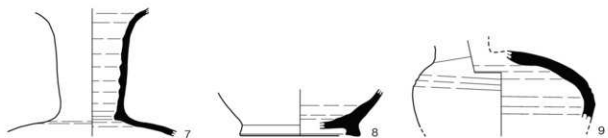
第20表 時期不明の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	幅		断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)					
1	D 9d0 ~ D 9g0	N-7°-E	直線状	(14.40)	2.70 ~ [3.55]	1.70 ~ 2.08	92	混台形	外組 人為	縄文土器 弥生土器 土師器
2	D 9g1	N-18°-E	S字状	(2.70)	0.50 ~ 1.08	0.35 ~ 0.78	13	浅いU字	外組 人為	

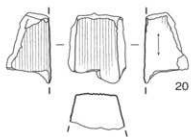
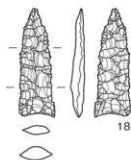
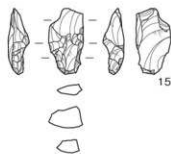
(3) 遺構外出土遺物



第44図 遺構外出土遺物実測図 (1)



0 (1:3) 10cm



0 (2:3) 4cm

第45图 遺構外出土遺物実測図(2)



第21表 遺構外出土遺物一覧(第44・45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	弥生土器	広口甕	[167]	[305]	[91]	長石・石美	にぶい	普通	口唇部縄文単体押圧。口縁部付加条二種付加1条。下部内面縁上に単体押圧。肩部13本輪南による溝弧文。胴部との境に輪状文。胴部付加条二種付加1条羽状施文	TM 5	10%
2	弥生土器	広口甕	-	(48)	[106]	長石	橙	普通	胴部外面付加条一種付加2条。内面ヘラナゲ焦り付着。底部赤目肌	TM 5	10%
3	弥生土器	広口甕	-	(40)	-	長石・石美	にぶい	普通	複合口縁。附加条一種付加2条	SI 1	5%
4	弥生土器	狭口甕	-	(84)	-	長石・石美	明靑	普通	付加条二種付加1条羽状施文	SK24	5% PL12
5	土師器	甕	[188]	(39)	-	長石・石美・赤色粘土	橙	普通	口縁部外面ハタ目後ナゲ。口唇部連続刺突文	表土	5%
6	土師器	手置土器	-	(17)	4.0	長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り後ナゲ。内面ヘラナゲ	TM 5	50%
7	須恵器	長頸瓶	-	(10.1)	-	長石・石美	暗灰黄	普通	胴部口ロナゲ。胴部内外面体部外面自然釉	SI 1	10% PL12
8	須恵器	瓶	-	(3.7)	[9.5]	長石	にぶい	普通	体部外面自然釉。内面口ロナゲ。高台部断面台形	SI 1	5% PL12
9	須恵器	瓶	-	(6.3)	-	長石・石美	灰黄褐	普通	体部口ロナゲ。外面上部自然釉	SI 1	5%
10	須恵器	甕	-	(6.9)	-	長石・石美	にぶい	普通	胴部口ロナゲ。外面凸帯。体部外面平行印跡	表土	5%
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
11	管状土鉢	2.6	(5.2)	0.5	(31.49)	長石・石美	にぶい	赤褐色	ヘラ削り後ナゲ。一方向からの穿孔	TM 5	
12	球状土鉢	3.2	3.3	0.5	39.97	長石・石美・雲母	橙		一方向からの穿孔	TM 5	
13	球状土鉢	3.5	3.7	0.6	39.68	長石・石美・雲母	黄褐		一方向からの穿孔	TM 5	
14	球状土鉢	3.4	2.6	0.9	25.78	長石・石美	にぶい	黄褐色	一方向からの穿孔	TM 4	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
15	ナイフ形石器	2.6	1.4	0.8	2.67	頁岩	素材は横長割片。二側縁に腹面側からのブランクディング加工先端部欠損	TM 4	PL12		
16	尖頭器	(12.1)	4.8	1.5	(73.59)	ガラス質黒色安山岩	素材は横長割片。表面平坦で細かい割線痕。表面中央部素材の厚みを減らすような大きな割線痕。先端部入念な両面調整	表土	PL12		
17	二次加工の 木と頁片	5.3	6.5	1.0	28.42	アイサイト	横長割片。割縁部3か所に腹面側からの割線痕	SI 1	PL12		
18	石鎌	4.3	1.4	0.6	2.77	チャート	両基無茎鎌。両面押圧調整	SI 1	PL12		
19	石鎌	(1.9)	1.8	0.3	(0.71)	チャート	両基無茎鎌。両面押圧調整	SK29	PL12		
20	砥石	(2.8)	(2.3)	(1.8)	(11.82)	凝灰岩	砥面1面。側面・裏面削り痕。欠損	SI 1			
番号	器種	径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考			
21	熟焼玉	1.3	(1.2)	(10.33)	鉛。	平坦面1か所	SI 1	PL12			

## 第4節 総括

### 1 はじめに

今回の調査では、旧石器時代から江戸時代までの遺構・遺物を確認した。ここでは、当遺跡の中心となる旧石器時代と古墳時代について概観し、総括とする。

### 2 旧石器時代

石器集中地点2か所を確認した。第1号石器集中地点の石器群には接合関係が認められず、散在した状況で出土している。本地点の性格は不明であるが、付近の調査区域外に石器製作跡が存在している可能性がある。石材は在地石材で、ガラス質黒色安山岩が5点(95.77g)、頁岩が5点(24.96g)、流紋岩が1点(1.65g)である。出土層位の第Ⅱ・Ⅲ層はAT降灰層準の直上にあたることから、約2万9千年前以降の所産とみられる。第2号石器集中地点の石器群は36点中17点が接合し、6点の接合資料を確認できた。平面分布は径4mほどの円形の範囲に集中している。以上のことから、本地点の性格は石器製作跡と考えられる。楔形石器が1点出土しているが、ほかには自然面を残す剥片が多く、調整剥片などもみられないことから、主に母岩から素材を獲得する荒削段階の製作跡と考えられる。小規模な礫群を構成する接合資料6は焼燼であり、火の使用が認められる。石材は在地石材で、石核・剥片が頁岩15点(92.17g)、玉髓7点(84.19g)、瑪瑙4点(44.16g)、デイスイト2点(49.71g)、流紋岩2点(46.98g)、チャート1点(24.01g)で、礫は石英斑岩5点(4766.4g)である。出土層位は、AT降灰層準があるとみられる第Ⅳ層を中心とした第Ⅲ～Ⅴ層であり、約3万年前後の所産とみられる。両地点とも黒曜石や珪質頁岩が認められなかったこと、在地石材のガラス質黒色安山岩が第1号石器集中地点では割合が多い一方、第2号石器集中地点では確認できなかったことが特徴的である。

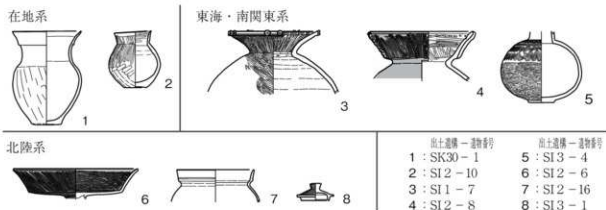
### 3 古墳時代について

今回の調査で確認した前期の遺構・遺物は、弥生時代から古墳時代への移行期にあたるもので、便宜上、「前期前業」と表記した。また、弥生土器と土師器の区分については、縄文をもつものを弥生土器、縄文をもたないものを土師器と表記した。前期の遺構としては、竪穴建物跡4棟、竪穴遺構1基、土坑12基を確認した。以下、出土土器や各遺構の性格と時期、集落の構造などについて検討する。

#### (1) 出土土器について

今回の調査では、在地の土器(在地系)とともに東海地方や南関東地方の特徴をもつ土器(東海・南関東系)と北陸地方の特徴をもつ土器(北陸系)が出土している。ここでは、代表的な土器について記述する(第46図)。

在地系は第30号土坑出土の1や第2号竪穴建物跡出土の2で、在地の弥生土器が無文化したものと考えられる壺などである。1は弥生土器の広口壺の器形であるが、縄文はなく無文である。2の器形も頭部の屈曲が弱く、口縁部が伸びて聞く弥生土器の広口壺を想起させる。無文化の特徴から茨城編年のⅡ期b段階の土器と考えられる。器種構成の点では小型丸底壇がみられないことから、Ⅱ期b段階でも古い時期と判断される。東海・南関東系には、第1号竪穴建物跡出土の3や第2号竪穴建物跡出土の4、第3号竪穴建物跡出土の5の壺などがある。3は頭部から「く」の字状に強く外反する口縁をもち、口縁部と体部



第46図 代表的な土器

外面がハケ目調整後に粗い磨きが施されている。口唇部は横ナデにより平坦面が作られ、断面は四角形で、口唇下部がわずかに張り出している。平坦面に2個一対になる円形浮文が貼付されている。円形浮文には竹管状工具による刺突文が施されている。口縁部の三分の一を欠いているが、5単位配されていたとみられる。器形や円形浮文をもつことから、弥生土器の装飾器が無文化したものと考えられる。4は二重口縁壺である。体部から口縁部が外反して「く」の字状に開き、口縁部下部が肥厚し段をなしている。口縁部外面がハケ目調整後に粗い磨きが施されている。ハケ目状工具による刻みをもつ2個一対の棒状浮文が4単位配されている。2個の浮文間にはハケ目が残ることから、ハケ目→棒状浮文→磨きの順に施されたとみられる。口縁部内面は磨かれ、端部付近に押し引きによる連続した刺突文が巡っている。器面外面は赤彩されている。5は弥生土器の装飾器の特徴をもつ土器である。口縁部を欠くが、体部はやや横長の球状で下方に最大径を有し、底部が突出している。体部上半には8本の櫛歯状工具による直線文とその下に4段の波状文が施され、下半には横位の磨きが密に施されている。この3点の土器は、その特徴から廻間Ⅱ～Ⅲ式期のものとみられる。北陸系は、第2号竪穴建物跡出土の6・7、第3号竪穴建物跡出土の8がある。6は大型の高杯である。脚部を欠くが坏部は盤状で口縁に向かって外反し、口唇部断面は角形である。器面全体に緻密な磨きと赤彩が施されている。脚部との接合部は突出している。胎土は精選され緻密で、焼成も良好である。土器の特徴から北陸北東部に多い中山南形高杯で、越後・越中に多いタイプ(AⅡ類)である<sup>1)</sup>。7は頸部と口縁部の間に段をもち、口縁部がほぼ直立する甕である。口縁部外面下端が凸帯状に肥厚し、上部に1条の凹線が巡っている。頸部内面に平坦面があり、口縁部との境に明瞭な段を有している。口縁部内面はハケ目後にナデが施されている。胎土は白色の細砂粒が目立ち、焼成は普通である。器形の特徴から北陸地方の有段口縁壺である。8は内面にかえりをもつ甕である。断面が逆台形の長めの握みを有する。握みの側面から蓋の外面にかけて丁寧な磨きを施している。胎土は白色や赤色の粒子が目立ち、砂粒を含み、焼成は普通である。富山県に多い口縁部が屈曲して上方に伸びるタイプの細頸壺に付く蓋である。これらの土器は、特徴や胎土から北陸で製作されたものではないが、系統的に北陸北東部にみられる土器である。時期は新潟シンボ編年の5期あるいは6期とみられる<sup>2)</sup>。

次に3系統の土器が出土した第2・3号竪穴建物跡の遺物出土状況を整理する。2・4・6・7が出土した第2号竪穴建物跡の覆土下層は、不自然な堆積状況から埋め戻されたと考えられる。また、柱穴の覆土の堆積状況から、柱が抜き取られたと推測される。さらに、床面が部分的に被熱によって赤変硬化しており、覆土下層で焼土も確認されたことから、廃絶時に焼却された可能性が高い。6の高杯に煤の付着が認められることも、その証左とみられる。2は北部の床面から横位の状態で、4は北部の焼土ブロックを含んだ覆土下層から正位



床面も硬化していない。規模や形状から建物と判断したが、上屋の存在を示す証左はない。占地の点からも第1～3号竪穴建物は調査区の中央に位置するのに対して、第4号竪穴建物は東側の台地先端部に位置している。第1～3号竪穴建物とは明らかに異質である。時期は、出土土器から第1～3号竪穴建物と同時期と考えられる。また、第4号竪穴建物は第39・40号土坑を掘り込み、第34・37号土坑に掘り込まれるという重複関係があることから、これらの土坑と近い時期に構築、機能していたことが考えられる。土坑12基は、第5号墳丘下から確認され、土坑群を形成している。径1～2m、深さ30～40cmの円形のものほとんどで、同じ目的をもって構築されたものとみられる。特に第30号土坑からは、5点の壺が逆位に埋納された状況で出土しており、何らかの祭祀行為が行われたことを示している。土坑底面とそれらの土器との間には間層があり、ある程度埋め戻した段階で土器を並べたとみられる。逆位の埋納状況や西寄りの1か所からまとまって出土していることから、埋葬時の伏せ巻のような行為が想像される。これらの土坑群は、埋葬や何らかの祭祀行為に関係したものと推測される。すべての土坑の時期を特定することはできないが、6世紀末から7世紀初頭に築造された第5号墳の墳丘下から確認されたことや、第30号土坑から出土した土器などから、第1～3号竪穴建物と時期が近いと推測される。第4号竪穴建物は位置や重複関係などから土坑群に関係が強いと考えられ、居住施設などではなく祭祀行為に関係した施設と想定したい。また、第1号竪穴遺構は、周囲に時期不明とした土坑が集中的に分布している点が第4号竪穴建物跡と類似しており、関連も想起される。

### (3) 集落について

前述のように第1～4号竪穴建物と土坑群は、前期と推測され、一つの集落を構成していたと考えられる。集落は3棟の竪穴建物からなる居住域と、12基の土坑群、そして居住施設ではない1棟の竪穴建物からなる墓域・祭祀域に分かれていたと推測できる。また、出土遺物が細片で時期不明とした第1号溝は、覆土の土質が古墳時代前期の遺構覆土と類似しており、集落に伴う区画溝であった可能性もある。集落は、現在酒沼と呼ばれる海跡湖を一望できる標高約20mの台地上で短期間に営まれた小規模な集落といえよう。なお、第2号竪穴建物跡の跡から出土した2点の炭化材を年代測定した結果、補正年代で1865±20yr BP、1915±20yr BP、較正暦年代でcal AD 125～230、cal AD 61～209という値であった（付参照）。今回の測定結果のみで実年代を特定することはできないが、出土土器の様相も考慮すると、第2号竪穴建物を含む集落は3世紀代と推定できる。

### (4) 後期古墳について

後期の遺構としては、古墳2基を確認した。第4・5号墳ともに円墳であることが明らかになった。規模も同程度で、積石の横穴式石室をもつことも共通している。石室石材には第4号墳が粘板岩状粘土のブロックが使用されているが<sup>6)</sup>、第5号墳は砂岩が使用されており、違いが認められる。副葬品は第4号墳から多くの馬具が出土したことが報告されているが<sup>7)</sup>、第5号墳からは、攪乱のため出土遺物が少なく断定できないが、馬具は出土していない。被葬者の性格の違いを反映しているのかもしれない。築造時期は第4号墳が6世紀後半、第5号墳が6世紀末から7世紀初頭とみられることから、第4号墳から第5号墳の順に築造されたことが明らかになった。

## 4 おわりに

今回の調査で、当遺跡は、約3万年前の旧石器時代には石器製作を伴う活動の場であり、3世紀代には集落を営む生活の場となり、6世紀後半から7世紀初頭には古墳を築造する埋葬の場になっていたことが明らか

かになった。特に3世紀代の集落跡からは、東海・南関東や北陸地方に系統をもつ土器が出土するなど、茨城県東部の弥生時代から古墳時代への変遷を考える上で貴重な資料を得ることができた。今後、これらの資料が茨城県における古墳時代の始まりや土器の編年研究の進展に寄与することを期待したい。

#### 註

- 1) 滝沢規朗「古墳時代前後に盛行する中山南型式の高塚について—北陸北東部固有の大型・有椀・身の浅い高塚についての一試論」『新潟考古』第21号 新潟県考古学会 2010年3月
- 2) 滝沢規朗「北陸における弥生時代後期～古墳時代前期の土器について—東の越と西の越—」『東生』第8号 東日本古墳確立期土器検討会 2019年5月
- 3) 櫻村宣行ほか「弥生土器から土師器へ—土器からみた地域間交流—」『シンポジウム 考古学からみる茨城の交易と交流』茨城県考古学協会 2016年1月
- 4) 土生朗治〔(仮称)上高津団地建設事業地内埋蔵文化財調査報告書 寄居遺跡 うぐいす平遺跡〕『茨城県教育財団文化財調査報告』第84集 1994年3月
- 5) 北陸系土器については、赤沢徳明氏、滝沢規朗氏のご教示による。
- 6) 和田正年ほか「天神山古墳群（4号墳）旭村教育委員会・天神山古墳群発掘調査会 1983年3月
- 7) 6)と同じ

#### 参考文献

- 赤塚次郎「廻間遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』第10集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1990年3月
- 岡本淳一郎「4 新波平野北部の古墳出現期土器」『下老子笹川遺跡発掘調査報告—能登自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V— 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告』第31集 2006年3月
- 柏瀬拓巳「茨城県南部における古墳出現期の集落出土土器編年」『歌台史学』第174号 歌台史学会 2022年2月
- 滝沢規朗「土器の分類と変遷—いわゆる北陸系を中心に—」『新潟県における高地性集落の解体と古墳出現』第1分冊 新潟県考古学会 2006年7月
- 田嶋明人「法弘式と月影式」『石川県埋蔵文化財情報』第18号 財団法人石川県埋蔵文化財センター 2007年10月

# 付 章 自 然 科 学 分 析

## 大谷川遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、大谷川遺跡より出土した炭化材の放射性炭素年代測定・炭化材同定と大谷川遺跡の基本土層（ローム層）のテフラの検出同定・重鉱物組成・火山ガラス比について分析・報告する。

### 1 炭化材の分析

#### 1 試料

試料は、大谷川遺跡から検出された第2号堅穴建物跡（SI 2）から出土した炭化材2点（No. 1、No. 2）である。なお、第2号堅穴建物跡は、調査所見から3世紀と推定されている。

#### 2 分析方法

##### (1) 放射性炭素年代測定

分析試料はAMS法で実施する。試料表面の汚れや付着物をピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理：AAA）。濃度はHCl、NaOH共に最大1mol/Lである。一方、試料が脆弱で1mol/Lでは試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度のNaOHの状態での処理を終える。その場合はAaAと記す。

精製された試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、14Cの計数、13C濃度（13C/12C）、14C濃度（14C/12C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-II）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の13C濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma, 68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver and Polach, 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4 (Bronk, 2009)、較正曲線はIntCal20 (Reimer et al., 2020) である。

## (2) 炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

## 3 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

結果を表1、図1に示す。SI 2出土炭化材の測定年代（補正年代）は、No. 1が1865 ± 20yrBP、No. 2が1915 ± 20yrBPの値を示す。

暦年較正は、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期5,730 ± 40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。暦年較正年代は、測定誤差を2σとして計算させた結果、No. 1がcalAD 125 ~ 230、No. 2がcalAD 61 ~ 209である。

### (2) 炭化材同定

結果を表1に併せて示す。検出された種類は広葉樹1種類（クリ）である。また、No. 1は試料が少量であったため、樹種同定が不可能であった。以下に検出された種類の木材解剖学的特徴等を述べる。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) プナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は34列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

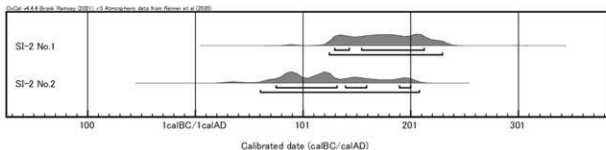


図1 暦年較正結果

表1 放射性炭素年代測定・炭化材同定結果

試料名	性状	分析方法	測定年代 yrBP	δ <sup>13</sup> C (‰)	暦年較正用 1867±21	暦年較正年代				Code No.		
						年代値					確率	
SI-2 No.1	炭化材 不明	AaA	1865±20	-28.89±0.36	1867±21	σ cal AD	130 - cal AD	144	1820 - 1807	calBP		12.7
						cal AD	155 - cal AD	213	1795 - 1737	calBP	55.6	
						2σ cal AD	125 - cal AD	230	1825 - 1720	calBP	95.4	
SI-2 No.2	炭化材 クリ	AaA	1915±20	-30.5±0.27	1918±21	σ cal AD	76 - cal AD	132	1875 - 1818	calBP	50.7	pal- YU- 14014 19001
						cal AD	140 - cal AD	160	1810 - 1791	calBP	11.7	
						2σ cal AD	190 - cal AD	201	1760 - 1750	calBP	5.9	
						2σ cal AD	81 - cal AD	209	1889 - 1742	calBP	95.4	

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。

2) yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差σ(測定値0.6‰が入る範囲を年代値に換算した値)。

4) AAAは酸-アルカリ-酸処理、AaAはアルカリの濃度を薄くした処理を示す。

5) 暦年の計算には、Oxcal4.4を使用。

6) 暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。

7) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は0は68%、2σは95%である。



#### 4 考察

第2号竪穴建物跡(SI 2)から出土した炭化材について放射性炭素年代測定を実施した結果、No.1は補正年代で $1865 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年代でcalAD 125～230、No.2は補正年代で $1915 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年代でcalAD 61～209の値が得られた。調査所見では第2号竪穴建物跡は3世紀頃と推定されており、2試料とも概ね同程度の年代値が得られている。よって、第2号竪穴建物跡が使われていた頃の年代を示している可能性があり、調査所見とも大きく乖離しない。

一方、炭化材同定の結果、No.1は不明であったが、No.2はクリに同定された。クリは、関東地方の里山林を構成する樹木の一種で、人里近くに多く、比較的入手が容易な樹木である。里山林は、適度な伐採や粗木の取替などが行われることにより維持管理される森林で、萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。材は重硬で強度と耐久性が高く水湿に強い。用途は多く、土木材や建築材(建物の柱材、屋根など)、家具材、器具材などで使用されている。また、火持ちも良いことから薪炭材としても優良である。

## II ローム層の分析

### 1 試料

試料はSS2基本土層断面より採取されている。試料採取断面では、上位よりI層～VII層に分層されている。これらのうち、I層からIII層までは褐色のローム層、IV層とV層はやや黄色調の暗い褐色のローム層いわゆる暗色帯であり、VI層は軽石の少量混じる褐色のローム層である。VII層は層厚約20cmの黄色を呈する軽石質テフラの降下堆積層である。このテフラ層は、調査区の地理的位置と黄色軽石を主体とする層相およびその層厚と周辺域におけるテフラの産状から、赤城火山より4.5万年前以前に噴出した赤城鹿沼テフラ(Ag-KP:新井,1962;町田・新井,2003)に同定される。

発掘調査ではIII層とIV層から石器などの遺物が出土している。試料はI層からVII層上部まで、上位から試料番号①～⑭の計14点が採取されている。各試料の採取層位は、結果を呈示した図2に柱状図として併記する。

分析は、火山ガラス質テフラである始良丹沢テフラ(AT:後述)や立川ローム上部ガラス質テフラ(UG:後述)の降灰層準を確認し、各層の重鉱物組成を網羅して標準層序との比較を実施することを目的とするため、試料番号②、④、⑥、⑩、⑫、⑭の計6点を選択した。

### 2 分析方法

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、「不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、バブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。また、火山ガラスにおける「その他」とは、軽鉱物分における火山ガラス以外の粒子(石英や長石類などの鉱物粒子および風化変質粒など)である。

### 3 結果

結果を表2、図2に示す。重鉱物組成は、I層からIV層上部までは斜方輝石が多く、60%前後を占め、他に少量～中量の不透明鉱物と微量～少量のカンラン石および角閃石および微量の単斜輝石が含まれる。V層ではカンラン石が30%程度で最も多いが、斜方輝石と角閃石および不透明鉱物も20%程度含まれる。VI層では斜方輝石が40%程度で最も多く、20%ほどの角閃石と不透明鉱物および10%ほどのカンラン石が含まれる。VII層は不透明鉱物が最も多く、約50%を占め、次いで角閃石が25%程度、他に少量のカンラン石と斜方輝石が含まれる。

火山ガラス比では、I層からIV層上部までの層位に少量のバブル型火山ガラスが含まれ、I層とII層には微量の中間型火山ガラスが含まれる。V層以下の試料には火山ガラスは極めて微量しか含まれない。

表2 SS-2基本土層サンプルの重鉱物・火山ガラス比分析結果

層名	試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
I	2	7	154	7	3	73	6	250	6	3	0	241	250
III	4	5	160	6	11	49	19	250	9	3	0	238	250
IV	6	34	144	2	17	30	23	250	8	2	0	240	250
V	10	78	56	0	45	53	18	250	1	0	0	249	250
VI	12	25	103	3	60	49	10	250	1	1	0	248	250
VII	14	15	34	2	67	125	7	250	1	0	0	249	250

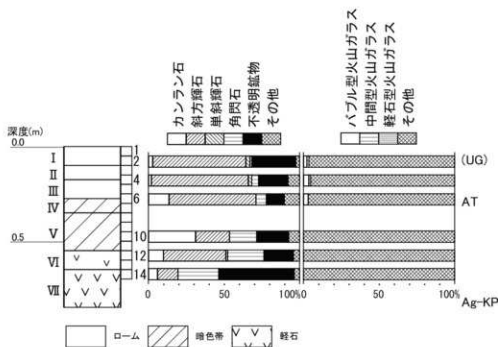


図2 SS-2基本土層サンプルの重鉱物組成および火山ガラス比

#### 4 考察

大谷川遺跡の位置する台地は、潤沼の南東沿岸に分布する中位段丘群に区分されており、南関東の武蔵野面群に対比されている（貝塚ほか編,2000）。特に潤沼南東沿岸の台地は、那珂川沿岸に分布する中位段丘の最高位の上市段丘と同時期とされている（坂本,1975）。上市段丘の形成年代は酸素同位体ステージの5aと考えられているから（貝塚ほか編,2000）、大谷川遺跡の位置する潤沼南東沿岸の台地も約8万年前の形成年代が考えられる。さらに分析対象とされた調査区のローム層断面では、Ag-KPの降下堆積層が確認されていることから、分析対象とされたローム層は、南関東における立川ローム層にほぼ対比される。

分析では、火山ガラス比においてI層からIV層上部の層位に少量ながらもバブル型火山ガラスが検出されている。この火山ガラスは、その形態的特徴と立川ローム層の中～上部付近という検出層位から、始良 Tn テフラ(AT:町田・新井,1976)に由来すると考えられる。今回の分析結果は、ATに由来する火山ガラスがローム層形成時に少量ずつ混ざり込んで攪乱した状況を示唆するが、一般に土壤中に特定テフラが混交して産出する場合はテフラ最濃集層の下限がそのテフラの降灰層準にほぼ一致すると言われている（早津,1988）。しかし、今回の結果から最濃集層を見出すことは難しい。V層以下には火山ガラスは極めて微量しか含まれないことを考慮すれば、ATの降灰層準は概ねIV層付近にあることが推定される。なお、群馬県から栃木県および茨城県北部における立川ローム層相当のローム層には、その中部付近に暗色帯の認められることが多い（新井,1962）。ATの発見以後は、その暗色帯の最上部にはATの降灰層準が推定されることも知られている。したがって、本地点のローム層のIV層とV層に認められた暗色帯も、北関東に広く認められる暗色帯にほぼ対比される。

I層からIII層上部までの層位には、微量ではあるが中間型火山ガラスも認められている。火山ガラスの形態とATよりも上位に産出することなどから、中間型火山ガラスは立川ローム層上部ガラス質テフラ(UG:山崎,1978)に由来する可能性がある。ただし、今回の分析結果からその降灰層準を推定することは難しい。

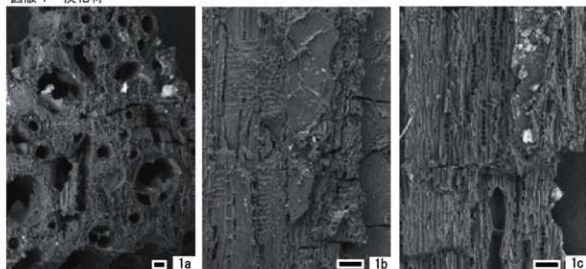
これまでに茨城県北部の台地上に形成された立川ローム層相当のローム層の分析事例では、ATとAg-KPに挟まれるローム層の層位にカンラン石の多く含まれる重鉱物組成が認められることが多い。今回の分析のV層の重鉱物組成もそれに相当すると考えられる。今後、周辺地域とのローム層の対比を行う場合には、このカンラン石の多い重鉱物組成も対比の指標になり得ると考えられる。

#### 引用文献

- 新井房夫,1962,関東盆地北西部地域の第四紀編年,群馬大学紀要自然科学編,10:1-79.  
Bronk, R. C.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon,51,337-360.  
林 昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.  
早津賢二,1988,テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフラクロノロジー-ATにまつわる議論に關係して-,考古学研究,34,18-32.  
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.  
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.  
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.  
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.  
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

- 伊東隆夫・山田昌久(編)2012.木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.
- 貝塚夷平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編 2000.日本の地形4 関東・伊豆小笠原,東京大学出版会,349p.
- 町田 洋・新井房夫,1976.広域に分布する火山灰-始良 Tn 火山灰の発見とその意義-,科学,46,339-347.
- 町田 洋・新井房夫 2003.新編 火山灰アトラス,東京大学出版会,336p.
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas L., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33.
- Richter H.G.,Grosser D,Heinz I and Gasson P.E.(編) 2006.針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘,(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D,Heinz I and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 坂本 亨,1975.磯浜地域の地質,地域地質研究報告(5 万分の1 図幅),地質調査所,55p.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982.図説木材組織,地球社,176p.
- Stuiver, M., and Polach, H. A.1977.Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.
- Wheeler E.A,Bass P, and Gasson P.E.(編) 1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A,Bass P, and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 山崎晴雄,1978.立川断層とその第四紀後期の運動,第四紀研究,16,231-246

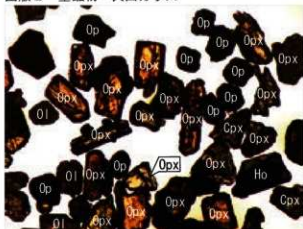
図版 1 炭化材



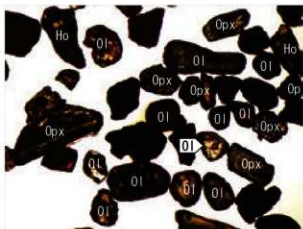
1. クリ (S1-2; No. 2)

a: 木口 b: 柱目 c: 板目  
スケールは100 $\mu$ m

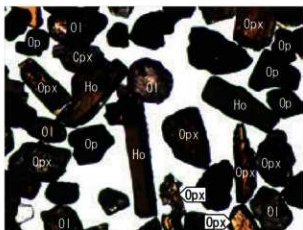
図版2 重鉱物・火山ガラス



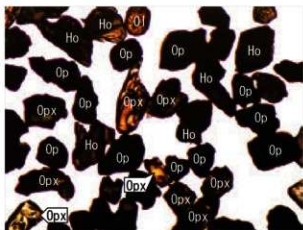
1. 重鉱物(SS-2基本土層I層:(2))



2. 重鉱物(SS-2基本土層V層:(10))



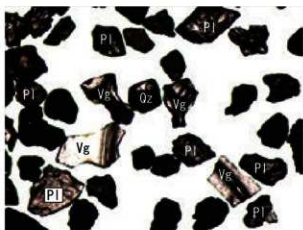
3. 重鉱物(SS-2基本土層VI層:(12))



4. 重鉱物(SS-2基本土層VII層:(4))



5. UGの火山ガラス(SS-2基本土層I層:(2))



6. ATの火山ガラス(SS-2基本土層III層:(4))

Ol: カンラン石, Opx: 直方輝石, Cpx: 単斜輝石, Ho: 角閃石, Op: 不透明鉱物,  
Vg: 火山ガラス, Qz: 石英, Pl: 斜長石.

0.5mm

# 写 真 図 版



遺跡遠景（南東から）





遺跡全景



基本層序



第1号石器集中地点 土層断面



第2号石器集中地点 土層断面



第2号石器集中地点 遺物出土状況





第1号陥し穴



第1号竪穴建物跡 遺物出土状況



第1号竪穴建物跡



第2号竪穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第2号竪穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第2号竪穴建物跡



第3号竪穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第3号竪穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第3号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡



第1号竖穴遺構



第30号土坑 遺物出土状況



第30号土坑



第34号土坑



第37号土坑 遺物出土状況



第1号溝跡

PL4



第4号墳（北から）



第4号墳 周溝土層断面（Aライン）



第4号墳 周溝土層断面（Bライン）



第5号墳 墳丘土層断面（Bライン）



第5号墳 (西から)



第5号墳 周溝土層断面 (Aライン)



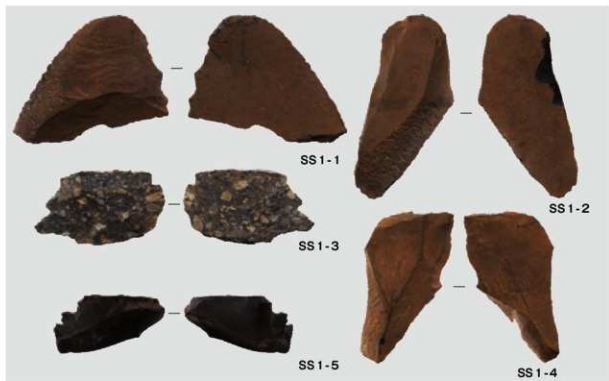
第5号墳 周溝土層断面 (Bライン)



第5号墳 石室



第5号墳 石室掘方



第 1 · 2 号石器集中地点出土遗物



第2号石器集中地点出土遺物



第2号石器集中地点、第1・2号竖穴建物跡出土遺物



第2号竖穴建物跡出土遺物





SI 2-19~52・54~60



SI 2-61



SI 2-62



SI 3-1



SI 3-6



SI 2-63



SI 3-2



SI 3-4



第1号竖穴遺構、第30・37号土坑出土遺物

PL12



第5号墳、遺構外出土遺物

## 抄 録

ふりがな	おおやがわいせき てんじんやまこふんぐん							
書名	大谷川遺跡 天神山古墳群							
副書名	主要地方道大洗友部線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 2							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第 473 集							
著者名	池田晃一							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
発行日	2024 (令和 6) 年 3 月 19 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
大谷川遺跡	茨城県鉾田市箕輪 字大谷川 1684 番地 2 ほか	08401 + 344	36 度 15 分 58 秒	140 度 31 分 28 秒	20 m	20201001 ～ 20210331	3279 m <sup>2</sup>	主要地方道大洗友部線バイパス整備事業に伴う事前調査
天神山古墳群		08401 + 006						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
大谷川遺跡	集落跡	旧石器	石器集中地点	2 か所	石器 (石核・楔形石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片)、礫			
		縄文	陥し穴	1 基				
		古墳	堅穴建物跡 堅穴遺構 土坑	4 棟 1 基 12 基	弥生土器 (広口壺・壺)、土師器 (坏・蓋・器台・高坏・鉢・壺・甕・台坏ミナツア)、土製品 (管状土錘・球状土錘)、石器 (磨製石斧・磨石・敲石・砥石)			
	その他	時期不明	土坑 溝跡	29 基 2 条	縄文土器 (深鉢)、弥生土器 (壺)、土師器 (高坏・壺・甕)、須恵器 (坏)、石器 (石鏃・剥片)、礫			
天神山古墳群	墓域	古墳	古墳	2 基	土師器 (坏・壺・甕)、須恵器 (瓶・甕)、土製品 (丸玉)、金属製品 (耳環・不明鉄製品)			
要約	古墳時代の堅穴建物跡から出土した土器は、北陸地方など他地域の特徴をもつ土器を含んでおり、前期前葉に位置付けられる。なお、第 2 号堅穴建物跡は出土した炭化材の年代測定の結果、3 世紀代と考えられる。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign 2023
	図版作成	Adobe Illustrator 2023
	写真調整	Adobe Photoshop 2023
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign 2023 でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第473集

鉾田市

大谷川遺跡  
天神山古墳群

主要地方道大洗友部線バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書2

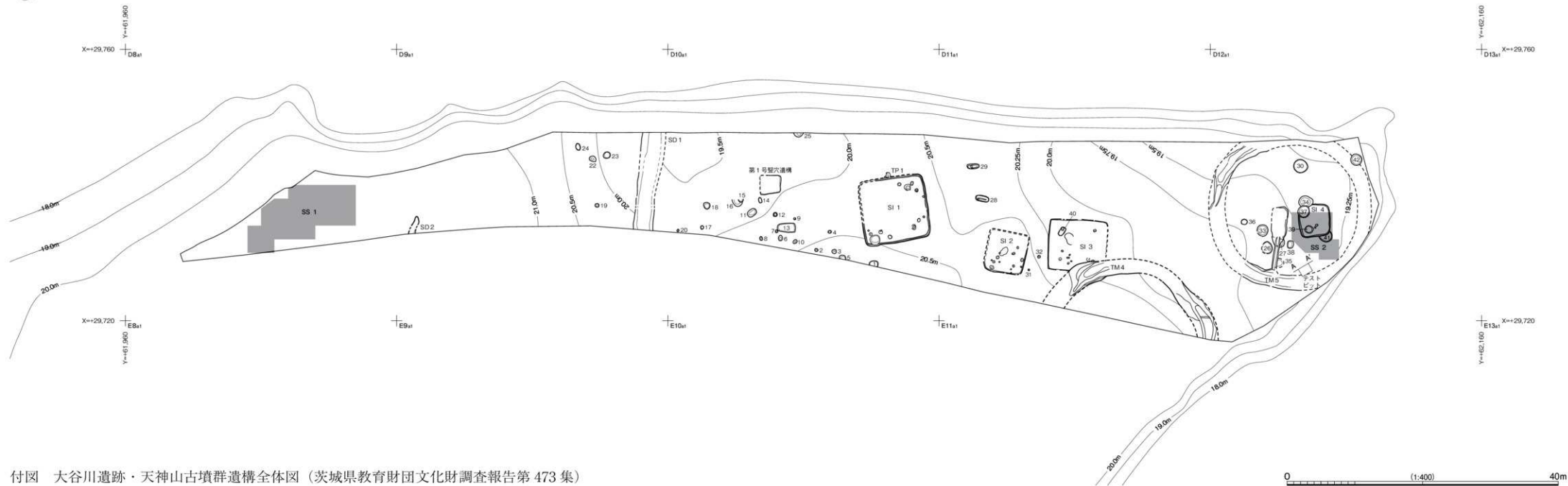
令和6（2024）年3月19日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
HP <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38  
リバーガーデン106号  
TEL 029-253-6951



付図 大谷川遺跡・天神山古墳群遺構全体図（茨城県教育財団文化財調査報告第 473 集）